

ニ關シテハ佛法ハ其婚姻中時効ヲ停止シテ進行セサルコトト爲セリ
 是レ一ニハ配偶者カ權利ノ執行ニ因リテ琴瑟ノ和諧ヲ破ラシコトヲ
 恐レ遂ニ之ヲ執行セスシテ時効ニ罹ルカ若クハ各自其權利ヲ執行ス
 ルノ故ヲ以テ靄然タル親愛ヲ失フカ二者其一ニ居ラサル可カラサル
 ノ困難ヲ思ヒ又一ニハ夫婦ハ直接ト間接トヲ問ハス互ニ贈與ヲ爲ス
 コトヲ禁セラレタルモノナルニ若シ夫婦間ニ於テ時効ノ進行ヲ停止
 セサルニ於テハ彼等ハ隨意ニ間接ノ贈與ヲ爲シ得ヘキニ因リ遂ニ贈
 與ノ禁制ヲシテ徒法ヲラシメノコトヲ恐レタルナリ
 本條ノ規定ハ之ニ反シテ配偶者間ニ於テモ時効ハ亦タ進行スルヲ以
 テ原則ト爲セリ是レ本法カ第三百三十一條第二項ニ於ケルト同一ノ旨
 趣ニ基キシモノナリ然リト雖モ本條ハ亦タ決シテ右佛法ノ二理由ヲ
 排斥シタルニ非ス故ニ第二項ヲ設ケテ其時効ハ最後ノ一个年間停止

スルコト規定セリ是レ亦タ前例ニ倣ヒシモノナリ
 然リ而シテ本條ノ場合ハ時効ノ長期ト短期トニ因テ區別セサルモノ
 ナルカ故ニ一个年以下ノ時効ニ關シテハ右最後ノ一个年停止ストノ
 規則ヲ適用シ難キモノアルニ因リ此時効ニ付テハ右規則ノ例外トシ
 テ其各時効ノ最後ノ年間間停止スルコト爲セリ即チ一个年ノ時効ニ
 付テハ第九百五十六條六個月間停止シ又六個月ノ時効ニ付テハ第九百六十三條
 間停止スルモノトス
 又第百四十四條ニ依レハ有躰動產物ノ占有ヲ取得スル者ハ即時ニ時
 効ノ利益ヲ得ルヲ以テ配偶者カ一旦婚姻ヲ解離セシキレノ如キ雙方互
 ニ他ノ一人ノ動產物ヲ占有シ居ルコトアリテ其婚姻ノ解離ト同時ニ右
 ノ即時時効成就スト云フニ至ラン是レ事理ノ宜シキヲ得サルモノナ
 リ故ニ本條ハ更ニ之ヲ定メテ此場合ニ動產ヲ回復スルハ三個月ノ期

間内ニ於テス可シ其間ハ時効ニ罹ルコトナク之ヲ回復シ得セシム可シト爲セリ辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ配偶者間ニ在リテハ其離婚後ト雖モ動産ノ取得時効ハ仍ホ三个月間停止スルモノナリ

第三百三十五條

時効ハ財産ノ管理人ト其管理ヲ受クル者トノ間ニ於テ其保存スルコトヲ任セラレタル

權利ニ付テハ管理人ノ爲メニ停止ス

時効ハ管理カ止ミシ以後ニ非サレハ更ニ進行セス

又第四百十四條ノ場合ニ於ケル動産ノ時効ニ關シテハ三个月ヲ以テスルニ非サレハ成就セス

〔義解〕(二五六) 本條ハ財産管理被管理ノ關係者間ニ於ケル時効ノ停止ヲ定メタルモノナリ

茲ニ甲乙二人アリ乙ハ甲ノ債務者若クハ甲ノ財産ノ占有者タル場合

ニ於テ乙カ甲ノ財産ノ管理人ト爲リシキハ甲ハ乙ニ對シテ其債權ヲ執行シ若クハ其所有權ヲ取戻サント欲スルモ一ハ德義上忍ヒサル所アルニ因リ一ハ其關係上却テ自家ニ不利ナル結果ヲ惹キ起スノ恐アルニ因リ得テ之ヲ斷行スル能ハサルコトアル可シ然ルニ法律カ若シ之ヲ普通ノ規則ノ下ニ放置セハ時効ハ乙ノ爲メ容易ニ成就シ甲ハ知リツ、損害ヲ受クルニ至ラン之ヲ約言スレハ管理人ナル資格ト債務者若クハ占有者ナル資格トハ相反對シテ時効ノ中斷ヲ行フ能ハサラシムルモノナルニ因リ本條ハ斯ル場合ニ於テハ時効ヲ停止スルコト爲セリ而シテ法文其保存スルコトヲ任セラレタル權利ニ付テハトアルハ其時効ニ罹ル權利カ管理人ノ管理スル財産中ニ在ルヲ必要トスルコトヲ示セルナリ蓋シ後見人總理代人其他被管理人ノ全財産ヲ管理スルモノナルキハ此注意ヲ要セスト雖モ若シ其管理カ財産ノ一部分ニ

止マリ而シテ時効ニ罹ル權利カ其管理外ナルモハ必スシモ前述ノ憂
 アルニ非サルヲ以テ時効ヲ停止セシムルノ必要ナキナリ
 管理人トハ總テノ管理人ヲ云フ故ニ法律上ノ管理人(夫又ハ後見人ノ
 如キ)タルト裁判上ノ管理人(相續人ノ曠缺セル相續財産ノ管理人又ハ
 破産管財人ノ如キ)タルト又合意上ノ管理人(代理人又ハ會社ノ取締役
 ノ如キ)タルトヲ問ハサルナリ

爰ニ注意ス可キコアリ即チ本條ハ管理ヲ受クル者カ管理人ニ對シ權
 利ヲ有スル場合ニ付テノ規定ニシテ其反對ノ場合ハ本條ニ包含セサ
 ルト是ナリ抑、管理人カ其被管理者ニ對シテ債權者タリ若クハ所有者
 タルノ地位ニ居ルト之ナキニ非スト雖モ此場合ニ於テハ管理人ハ隨
 意ニ其權利ヲ執行シ時効ノ中斷ヲ爲スノ自由ヲ有スルモノニシテ毫
 モ前述ノ如キ自然的妨碍ヲ受クルトナシ故ニ此場合ニ係リテハ時効

ハ決シテ停止スルトナク平常ノ場合ノ如ク斷ヘス進行スル者ナリ
 然リ而シテ時効ノ停止ハ其管理ノ止ミシキマテ及ホスモノトス是レ
 停止ハ管理ニ原因スルモノナルヲ以テ管理ノ止ムハ即チ停止ノ原因
 ノ止ムモノナルニ因テ然ルナリ然レモ彼ノ動産ノ取得時効ニ關シテ
 ハ此場合ニ於テモ亦タ全ク前條ト同一ノ事情アルヲ以テ本條ハ全ク
 前條ニ倣ヒ管理ノ止ミシ後三個月間ハ停止スルトト爲シ即チ三個月
 ヲ以テスルニ非サレハ成就セスト規定シタルナリ

第三百三十六條 上ニ定メサル場合ニ於テ時効ノ期間

ノ滿了スル時ニ當リ有權者カ交通ノ塞カリタルニ
 因リ又ハ地方ノ裁判事務ノ停止セラレタルニ因リ
 テ其權利ノ効用ヲ致サシメ又ハ時効ヲ中斷スル爲
 メ手續ヲ爲スコト能ハサリシ時ハ有權者其妨碍ノ

止ム後直チニ請求ヲ爲スニ於テハ其失權ヲ免カルルコトヲ得

右ノ規定ハ陸海軍人カ戰亂ノ時ニ於テ服役ノ爲メ其權利ヲ行フコトヲ妨ケラレタル場合ニ於テハ其利益ノ爲メ之ヲ適用ス

〔義解〕(二五七) 本條ハ時効ノ中斷ヲ事實上行フ能ハサル場合ニ付キ一種ノ停止ヲ定メタルモノナリ

以上研究シ來レル時効ノ停止ハ或ハ權利ノ性質ニ基ツキ或ハ權利者ノ身分ニ基ツキ又或ハ當事者雙方ノ關係ニ基ツキタルモノナリ然ルニ總テ此等ノ事情アルニ非ス唯々普通一般ノ場合ニ於テ一時時効ヲ停止セサル可カラサルコトアリ他ナシ外部ヨリ來ル事實上ノ妨碍ニ因リ其權利ノ効用ヲ致ス能ハス又ハ時効中斷ノ手續ヲ爲ス能ハサル

場合是ナリ元來法律ハ能ハサルヲ責ムルモノニ非ス然ルニ今マ權利者カ時効ノ中斷ヲ行ハントスルモ事實上之ヲ行フ能ハサル場合ニ當リ通常ノ規則ヲ墨守シテ其中斷ナカリシカ爲メ時効ハ既ニ成就スト云フハ非理ノ甚シキモノニシテ能ハサルヲ責ムルニ外ナラス故ニ此等ノ場合ニ於テハ其妨碍ノ繼續スル間時効ヲ停止スルコト爲シ以テ失權ヲ免カレシムルナリ然レモ其失權ヲ免カレシムルニハ三個ノ要件ヲ具備セサル可カラス

第一 或ル事實上ノ妨碍アリシコト○事實上ノ妨碍ニハ或ハ疾病繁忙等自己ヨリ出ツルモノアリト雖モ此等ノ場合ハ代理人ヲ委任シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ中斷ヲ行フコトヲ得ヘキニ因リ之ヲ眞ノ妨碍ト云フ可カラス故ニ此妨碍ハ必ス外部ヨリ來リ且其不可抗力ナルコトヲ要ス然レモ苟モ此ノ如クナレハ如何ナル事件ニテモ可ナリト云フニ非

ス本條ハ之ヲ二個ノ場合ニ限定セリ

(一)交通閉塞ノ場合 是レ大雪、洪水、戰亂又ハ流行病ニ因ル交通遮斷等ノ場合ニシテ到底交通スルニ手段ナキ場合ニ限ルナリ然レモ如何ナル情況ヲ以テ果シテ交通ノ閉塞アリト爲スヤハ豫メ之ヲ一定スルヲ得ス唯タ裁判所カ事實ニ臨ミ毎回判定ス可キモノトス

(二)裁判事務停止ノ場合 是レ事件ヲ管轄スル裁判所カ事務ヲ停止セシ場合ニシテ例ヘハ水火、震災ニ因リ裁判所ノ建築毀滅シタルトキ又ハ裁判所ノ執務ニ必要ナル物件ノ喪失シタルトキ又或ハ戰亂若クハ人心ノ激動ニ因リ裁判所ノ開廷シ能ハサリシ等ノ場合ヲ云フナリ

法律ノ認メシ妨礙ハ必ス右二個ノ事實ニ限ルカ故此他如何ナル事情アルモ亦タ時効ノ停止ヲ得ル能ハサルナリ

第二 其妨礙カ時効期間ノ滿了スル時ニ生セシト前號ノ妨礙ハ必

ス時効期間ノ將サニ滿了セントスル時ニ生セシトテ要ス蓋シ其滿了スル以前已ニ止ミタルトハ假令事實アリタルモ其後ニ於テ中斷ヲ行フテ得ヘク又其妨礙カ滿了後ニ生セシトハ固ヨリ時効ニ關係ナク之ヲ妨礙ト云フ可カラサルナリ

第三 其妨礙ノ止ム後直チニ請求ヲ爲セシト元來此停止ヲ爲スハ有權者カ請求ヲ爲サント務メシモ亦タ能ハサリシニ因ルナリ故ニ今マ妨礙ノ止ミシト有權者カ直チニ其請求ヲ爲スヤ其請求ノ後レシハ過失ニ非スシテ右ノ妨礙ノ爲メナリシトノ推測ヲ得ヘク即チ停止ノ利益ヲ與フルニ足ルナリ然レモ若シ妨礙ノ止ミシ後多少ノ時日ヲ經過セシトキハ其懈怠ニ因リテ遅延セシモノト推測セラレ、ニ因リ停止ノ利益ヲ與フルノ理ナシ是レ此要件アル所以ナリ而シテ直チニトハ若干時間ヲ指稱スルヤ稍漠然タルカ如シト雖モ固ヨリ其時間ヲ定

メ得ヘキニ非ス唯々裁判所ノ認定ニ一任ス可キノミ

〔二五八〕陸海軍人カ戰亂ノ時ニ於テ服役ノ爲メ其權利ヲ行フコトヲ妨ケラレタル場合ニ於テハ亦々前項ノ例ニ倣ヒ其失權ヲ免カレシムルモノトス是レ戰亂ノ時ニ於ケル服役ハ屢豫期ノ外ニ出ツルヲ以テ此カ爲メニ其權利ヲ行フ能ハサリシハ之ヲ過失ト云フ可カラサレハナリ然リ而シテ此場合ニ於テモ前項第二第三ノ二要件ハ亦々之ヲ具備セサル可カラス

第三百三十七條 物權又ハ人權ノ不可分ヨリ生スル時効ノ停止ハ財産編第二百九十一條第四百四十六條及ヒ債權擔保編第八十九條第二項ニ於テ之ヲ規定ス

〔義解〕〔二五九〕本條ハ時効ノ停止ノ各利害關係人ニ及ホス影響ニ付

キ前ノ諸編ニ既ニ其ノ規定アリシ今條ヲ茲ニ枚擧シ以テ特ニ之ヲ明示シタルニ過キサリナリ其詳ナルハ宜シク各規定ニ就テ之ヲ觀ル可シ

第五章 不動産ノ取得時効

第三百三十八條 不動産ノ取得時効ニ付テハ所有者ノ名義ニテ占有シ其占有ハ繼續シテ中斷ナク且平穩公然ニシテ下ニ定メタル繼續期間アルコトヲ要ス
財産編第八十三條及ヒ第八十五條ニ定メタル如キ強暴隱密又ハ容假ノ占有ハ時効ヲ生セス

〔義解〕〔二六〇〕本條ハ不動産ノ取得時効ニ關スル要素ニ付キ必要ナル條件ヲ定メタルモノナリ

不動産ノ取得時効ハ占有ト期間トノ二大要點ニ依テ成ルモノナリ而

シテ其期間ハ第四百十條ニ定メタル所ニ從ヒ或ハ十五个年タリ或ハ三十个年タルモノトス又占有ニ付テハ其占有カ本條枚擧ノ五條件ヲ具備スルヲ要スルナリ

抑占有ノ何タルヤハ財産編ノ特ニ一章第一部第四章ヲ置テ規定セシ所ナレハ茲ニ之ヲ贅セス唯タ一ノ注意ス可キハ有形ノ占有ト無形ノ占有有准占有トモ稱ストテ區別セサルコト是ナリ元來占有ニハ有躰物ノ所持ト權利ノ行使トノ二種アリ不動産其モノヲ所持スルハ有躰物ノ所持ニシテ其所有權ノ支分權タル用益權使用權又ハ地役權等ヲ自カラ執行シ若クハ自己ノ名義ヲ以テ他人ヲシテ執行セシムルハ即チ權利ノ行使ニシテ不動産ノ占有ニ外ナラス故ニ本條ノ所謂不動産ノ取得時効トハ管々其所有權ヲ取得スルモノ、ミナラス所有權ノ支分權ヲノミ取得スル場合ヲモ亦々包含スルモノト知ル可シ但此點ニ付キ論述

ス可キヲ多々之アリト雖モ他日適當ノ場所ニ於テ之ヲ述ヘン然リ而シテ占有カ果シテ取得時効ノ基礎ト爲リ得ルニハ唯々其占有セル一事ヲ以テ足レリトスルニ非ス必ス左ノ五條件ヲ具備セシ占有ナラサル可カラサルナリ

第一 所有[○]者[○]ノ名義[○]ヲ以テ占有セルコト○是レ占有ヲシテ民法上其効果ヲ生セシムル最緊ノ要件タリ故ニ占有者ハ自己ノ所有物ト爲スノ意思ヲ以テ占有スルコトヲ要シ隨テ買主、受贈者等ノ名義ニテ占有シタルハ可ナレモ借主、受託者ノ如キハ明ニ他ニ其所有者アルコトヲ承認シツ、占有スルモノナルヲ以テ之ヲ容假[○]ノ占有ト云ヒ第二項ノ明示セル如ク時効ヲ生スルコトナシ然ルニ彼ノ竊盜ノ如キ騙取者ノ如キニ至リテハ其贓物ヲ占有セルハ甚々不正ニシテ固ヨリ惡ム可シト雖モ時効ハ却テ彼等ノ爲メニ成ルモノトス是レ彼等ハ之ヲ自己ノ所有

物ト爲スノ意思ヲ以テ占有セシ者ナレハナリ財産編第百八十五條及七六條參看

第二 占有ノ繼續セルコト○占有ノ繼續トハ時々刻々常ニ其物件ヲ掌握シ監護スルノ謂ニ非ス唯々之ヲ自己ノ所持内ニ入レ所有者ノ爲ス可キ所爲ヲ怠ラサリシヲ以テ足レトス例ヘハ家屋ハ自カラ之ニ住居セスト雖モ每期其賃賃ヲ請求スレハ他人ニ貸與シアルモ其占有ノ繼續タルヲ妨ケス又田畝ノ如キ瞬間モ之カ耕耨收穫ヲ止ム可カラスト云フニ非ス唯々適當ノ時期ニ之ヲ耕耨シ之ヲ收穫スレハ則チ繼續タルヲ得ヘキナリ同上第百八十八條第三項參看 尙ホ此條件ニ付テハ次條ノ規定アリ就テ觀ル可シ

第三 占有ノ中斷セラレサルコト○是レ既ニ前ノ第三章ニ於テ詳ニ攷究セシ所ナレハ茲ニ之ヲ覆説セス

第四 占有ノ平穩ナルコト○占有ハ其起始ニ於テモ亦々其中間ニ於テ

モ總テ平穩ナラサル可カラス此條件ヲ缺キシ占有ハ即チ第二項ノ所謂強暴ノ占有ニシテ其強暴ノ繼續スル間ハ時効ノ基礎ト爲ラサルナリ抑強暴ノ占有トハ占有カ暴行又ハ脅迫ニ因リテ成リ又ハ保持セラレタルモノニシテ之ヲ瑕疵ノ占有ト云フ時効ハ其瑕疵ノ消滅セシトキ即チ強暴ノ止息セシ瞬間ヨリ始メテ進行スルモノトス同上第百八十三條及七

第百八十八條第一項參看

第五 占有ノ公然ナルコト○占有ハ公然且外見ノ所爲ニ因リテ當事者ニ容易ニ見ハル、コトヲ要ス其否ラサルモノハ之ヲ隱密ノ占有ト云ヒ瑕疵ノ占有トシ爲メニ時効ヲ生セス然レモ左ノ二場合ノ如キハ毫モ此條件ヲ缺キ時効ヲ妨クルモノト云フヲ得サルナリ

(イ)何人モ占有ヲ知り得ル如ク爲サ、リシコト○例ヘハ甲者アリ乙者ノ物件ヲ占有シテ丙者ヲ其所有者ナリト誤認シ之ニ對シテハ特ニ其事

ヲ匿秘シタリトセンニ此場合ハ丙者ニ對シテハ公然ナラサルモ乙者ニ對シテハ敢テ匿秘セシトナキニ因リ時効ヲ主張スルヲ得ヘシ
 (ロ)當事者カ現ニ其占有ヲ知ラザリシト〇時効ニ一原則アリ曰ク「事ヲ行フ能ハサル者ニ對シテハ時効ハ進行セズ」ト是レ當事者ニ對シテ占有ヲ匿秘スレハ彼ハ之ニ故障ヲ述フル能ハサルニ因リ公然ト云フ一條件ヲ要スト爲セシ所以ナリ此故ニ我レ若シ殊更ニ占有ヲ匿秘スレハ其責我ニ在リテ時効ハ爲メニ生セサルモ我レ已ニ公然之ヲ占有シテ毫モ匿秘スル所ナカリシニ彼レ我占有ニ心付カザリシハ是レ彼レノ懈怠ニシテ我ノ公然タルニ妨クル所ナシ故ニ當事者其人ノ知不知ハ決シテ問フ所ニ非サルナリ同上第百八十三條及七第百八十八條第二項參看
 第三百三十九條 占有者カ時効ニ因リテ取得セントスル物ニ付キ或ル長キ時間所有者ノ行爲ヲ爲スコト

ヲ任意ニテ止メシトキハ其占有ハ不繼續ニシテ時効ヲ生セズ

占有者カ再ヒ所有者ノ行爲ヲ爲ストキハ其以前ノ占有ノ時間ハ占有者ノ爲メニ之ヲ算セス

〔義解〕(二六一) 本條ハ前條「繼續」ノ語ニ付テ説明セルモノナリ

時効ノ基礎タル占有ハ一定ノ期間間斷ナク繼續セシトテ要スルハ前條ノ既ニ明示シテ之ヲ其條件ノ一ニ算セシ所ナリ然ルニ其繼續トハ寸時分陰モ間斷ナカリシヲ云フ乎將タ如何ナル場合ニ於テ不繼續ト爲ル乎ハ頗ル紛争ヲ生シ易キ點ナルカ故本條ハ更ニ其點ヲ規定シタルナリ
 抑占有ノ不繼續ト爲リ時効ヲ生セサルニ至ルハ左ノ二點ノ並ヒ存スルトテ要ス

第一 或ル長キ時間所有者ノ行爲ヲ爲スヲ止メタルヲ○占有者カ
 時効ニ因リテ取得セントスル物ニ付キ常ニ所有者ノ爲ス可キ行爲ヲ
 爲スルハ之ヲ占有ノ繼續トス然ルニ若シ或ル時間之ヲ止メシキハ則
 チ不繼續ニシテ而シテ法文ニ「長キ時間」トアルハ是レ最モ拘泥ス可カ
 ラサル所アリ數日ノ時間必スシモ短シト云フ可カラズ數月ノ時間モ
 亦タ必スシモ長シトセス問フ可キ所ハ寧ロ其必要ナル行爲ヲ止メシ
 ヤ否ヤニ在リ例ヘハ一期間即チ半年若クハ一个年其占有セル田畝
 チ拋棄シテ播種耕耨セザリシカ如キ即チ夏月播種ノ時期ニ際シ世人
 ハ其所有地ニ播種ヲ爲スニ占有者ハ全ク其時期ヲ過了ルモ之ヲ爲
 サ、リシカ如キ是ナリ但地質等ノ原因ヨリシテ數年目ニ播種耕耨ヲ
 休スム如キハ特別ナルヲ以テ之ヲ不繼續ト云フヲ得サルモノト知ル
 可シ

第二 任意ニテ之ヲ止メシヲ○前段ノ如ク所有者ノ行爲ヲ爲スヲ
 止メシモ其之ヲ止メシ原因ハ占有者ノ任意ニ出テサル可カラズ若シ
 夫レ天災事變其他ノ不可抗力ニ出テシキハ其行爲ヲ止メシモ全ク已
 ムヲ得サルモノニシテ占有者ノ意思上ニ於テハ尙ホ其占有ヲ繼續セ
 ルモノナレハ之ヲ不繼續トスルヲ得サルヤ勿論ナリトス

《二六二》 右ノ二條件具備シテ占有ノ不繼續ト爲リシキハ時効ハ其基
 礎ヲ失フコトト爲ル可シ然レモ占有者若シ再ヒ所有者ノ行爲ヲ爲ス
 キハ時効モ亦タ再ヒ進行ス可キヤ言テ俟タズ唯タ此場合ニ於テハ其
 時効ハ新タニ進行ヲ始ム可キモノニシテ其以前ニ經過セシ占有ノ時
 間ハ總テ占有者ノ爲メ之ヲ算セス蓋シ占有ノ繼續ヲ止メシハ即チ一
 時其占有ヲ失ヒシノミニシテ恰モ自然ノ中斷ト爲リ第百八條參看之ト同一
 ノ結果ヲ生スルモノナレハナリ

第四百十條 占有カ上ニ定メタル條件ノ外財産編第百八十一條ニ記載シタル如キ正權原ニ基因シ且財産編第百八十二條ニ從ヒテ善意ナルトキハ占有者ハ不動産ノ所有地ト時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ住所又ハ居所トノ間ノ距離ヲ區別セス十五年ヲ以テ時効ヲ取得ス

占有者カ正權原ヲ證スルコトヲ得ス又ハ之ヲ證スルモ財産編第百八十七條ニ規定シタル如ク其惡意カ證セラレルトキハ取得時効ノ期間ハ三十年トス

〔義解〕(二六三) 本條ハ時効ノ一大要素ナル期間ヲ規定シタルモノナリ

不動産ノ取得時効ニハ占有ト期間ト二大要素ヲ具備ヒサル可カラズ而シテ占有ニ必要ナル條件ハ上來已ニ其規定アリ本條ハ即チ其期間ノ如何ヲ定メタルモノニシテ二種ノ區別ヲ設ケ一ハ之ヲ十五年ト爲シ他ノ一ハ之ヲ三十年ト爲セリ

夫レ必要ナル條件ヲ具備セル占有カ十五年間繼續セルキハ時効ノ成就スルコトアリ而シテ其十五年ニシテ成就スルニハ又正權原ト善意トノ二條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 正權原トハ總テ權利ヲ授付ス可キ性質アル權利行爲ヲ云ヒ而シテ其讓渡人ニ授付ノ分限ナキト雖モ亦タ可ナリ財産編第百八十一條故ニ例ヘハ賣買交換贈與等ニ因リテ物ノ占有ヲ得タルトキハ其賣主交換者贈與者ハ眞ノ所有者ニ非サリシニモセヨ之ニ因リテ取得セル占有ハ即チ正權原ノ占有タルナリ

侵奪ニ因リテ成リタル占有ハ之ヲ無權原ノ占有ト云ヒ第二項ノ期間
 (三十年)ヲ要ス又貸借寄託等ニ因リテ得タル占有ハ之ヲ容假ノ占有ト
 云ヒ時効ヲ生セス即チ正權原ノ占有ハ此等ニ反對スルモノナリ
 第二 善意トハ權原創設ノ當時ニ於テ占有者カ其權原ノ瑕疵ヲ知ラ
 サリシモノヲ云フ同上第百即チ占有者カ或ル物ヲ占有シ居ルニ此物
ノ所有權ハ自己ニ取得シタルモノト信スルノ謂ナリ此自信ハ假令錯
誤ニ出シモノナリト雖モ其善意タルヲ妨ケス若シ其自信ニシテ錯誤
ニ非サレハ彼ハ占有者ニ非スシテ所有者タル可シ是ヲ以テ善意ノ占
有トハ唯マ心ニ自己ノ所有ニ歸セリト信スル一念ヲ以テ足レリトス
然リ而シテ此善意ハ終始繼續シテ存在セサル可カラス假令權原創設
ノ當時ハ善意ニテ占有ヲ爲セシモ後其自信ノ錯誤ナルコトヲ發見セ
シトキ即チ其權原ノ瑕疵ヲ覺知セシトキハ善意ハ其瞬間ヨリ止ミテ

彼ハ惡意ノ占有者ト爲リ第二項ノ規則ニ服從セサル可カラス同上未項參看
 此二條件ノ具備セルキハ十五年ヲ以テ時効ヲ取得ス可シ今マ一例
 ヲ擧ケテ之ヲ反覆センニ乙者アリ丙者ノ土地ヲ冒認シテ之ヲ甲者ニ
 賣渡セリ(正權原)甲者ハ其丙者ノ所有地ナルトヲ知ラス偏ニ乙者ノ所
 有ナリト信シ(善意)之ヲ買受ケテ占有シ爾後遂ニ曾テ其事ヲ覺知セサ
 ルキハ十五年ニシテ時効ヲ取得シ其所有權ヲ得モノルナリ
 抑十五年ニテ時効ヲ取得スルニ付キ右ノ二條件ヲ要スルハ何ソヤ
 蓋シ正權原ニテ占有スル者ハ其占有ヲ得シヤ正當ノ行爲ニシテ其人
 毫モ惡ム可キノ點ナキニ因リ法律ノ之ヲ遇スルヤ無權原ノ占有者ト
 殊別セサル可カラス而シテ正權原ノ占有者ト雖モ其權原ノ瑕疵ヲ知
 リツ、占有セシ者ハ亦マ正當ト云フ可カラサルモ現ニ其瑕疵ヲ知ラ
 ス善意ナリシニ於テハ之ヲ無權原若クハ惡意ノ占有者ニ比シテ大ニ

便益ノ地ニ置カサル可カラス是レ之ヲ第二項ト異ニシテ十五个年ト爲シタル所以ナリ

〔二六四〕 法文「不動産ノ所在地ト時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ住所又ハ居所トノ間ノ距離ヲ區別セズ」トノ一句ハ必竟佛法ノ規定ニ反對スルノ意ヲ示スニ過キサルモノ、如シ佛法ニ於テハ正權原且善意ノ占有ニ付テ時効ノ期間ヲ十个年或ハ二十个年トシ不動産ノ所在地ト時効ノ爲メ害ヲ受クル者即チ其所有者ノ住所又ハ居所トカ同一控訴院管内ニ在ルルハ之ヲ十个年トシ反對ノ場合ハ之ヲ二十个年ト爲シタリ然レモ此制ハ甚メ價直ナキ區別ニシテ學者ノ一致排斥スル所ナリ故ニ本法ハ其期間ヲ折衷シテ十五个年トシ右ノ區別ヲ爲サ、ルコト爲セリ是ニ於テ疑惑誤解ヲ防キ右ノ區別ナキコトヲ明カニセンカ爲メ該法文ヲ挿ミシモノナランカ要スルニ無用ノ冗文ト云ハサルヲ得サル

ナリ

〔二六五〕 前項ノ二條件全ク缺クシモ又ハ其一ヲ缺キシモハ時効ハ三十个年ノ期間ヲ要ス故ニ占有者カ自カラ正權原ヲ正シ得サルモ又ハ之ヲ證スルモ相手方カ其占有ノ惡意ナルコトヲ證シタルモハ則チ前項ノ如ク十五个年ニシテ時効ヲ取得スルコトヲ得ス必スヤ三十个年ヲ經過セサル可カラサルナリ蓋シ正權原アルコトハ占有者ヨリ之ヲ證明セサル可カラス而シテ正權原ノ證據アル占有ハ之ヲ善意ノ占有ナリト推定スルモノニシテ其惡意ニ付テノ舉證ノ責ハ相手方ニ在ルナリ

財産編第百八十七條

此故ニ三十个年ノ時効ニ付テハ第三百三十八條ニ定メシ占有ニ必要ナル條件ノ外唯々其期間ヲ充タスヲ以テ足レリトシ正權原ト善意トノ二條件ハ一モ之ヲ要セサルナリ

第四百十一條 性質上登記ヲ爲ス可キ正權原ニ基因シタル時効ハ其證書ニ依リ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ算セス

〔義解〕(二六六) 性質上登記ヲ爲ス可キ正權原ニ基因シタル時効トハ第三者ニ對シテ登記ヲ爲スニ非サレハ所有權移轉ノ効ナキ行爲ニ基因シタルモノヲ云フ例ヘハ賣買讓與等ニ依リテ不動産ノ占有ヲ得タルルルノ如キ是ナリ此場合ニ於テハ所有者ハ占有者ニ對シ一ノ第三者ナレハ占有者カ之ニ對シテ其占有ノ正權原ニ基因シタルヲ主張セシニハ必スヤ證書ニ依リ登記ヲ爲シタル事實アルヲ要ス否サレハ第三者所有者ニ對シテハ正權原即チ賣買讓與ナカリシモノト同一タリトス故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ時効ノ期間ハ其正擔原ヲ登記シタル日ヨリ之ヲ起算セサル可カラズ但其正權原ヲ主張セスシテ三十個年

ノ期間ニ從フキハ其事實上占有ヲ取得セルルヨリ起算シ得ルヤ言テ俟タサルナリ

第四百十二條 方式上無効タリ又ハ裁判上取消サレタル權原ハ時効ノ爲メニ有益ナラス

〔義解〕(二六七) 凡ソ權原ニハ一定ノ方式ヲ要スルモノアリ贈與又ハ夫婦財産契約ニ公正證書ヲ要シ遺贈ニ遺言者ノ自筆ノ證書公正證書又ハ秘密ノ方式ヲ要スルカ如キ是ナリ此等ハ其方式ヲ以テ契約又ハ遺贈成立ノ一要件ト爲シ若シ之ヲ缺ケハ全ク無効ト爲ルモノナリ故ニ占有者カ其占有ヲ得シハ例ヘハ贈與ニ因ルトセシニ贈與ハ固ヨリ正權原ナリト雖モ其公正證書ナカリシトキハ贈與其モノカ既ニ無効ニシテ成立セサルモノナレハ占有者ハ正權原ヲ主張シテ十五個年ノ時効ヲ取得セントスルモ得ヘカラス唯タ三十個年ノ期間ヲ待ツノ外

又合意ノ如キモ固ヨリ正權原ナリト雖モ若シ其無能力又ハ承諾ノ瑕
疵等ニ因リ裁判上之ヲ取消サレタルモ其合意ハ曾テ無カリシモノ
ト爲リ隨テ其占有ハ無權原ト爲ルナリ故ニ此場合ニ於テモ亦々時効
ハ三十年ノ期間ニ從ハサル可カラス

第四百十三條 前主ノ占有ヲ其相續人及ヒ包括若ク

ハ特定ノ承繼人ノ占有ニ併合シ又ハ繼續スルコト

ハ財産編第九十二條ニ於テ之ヲ規定ス

〔義解〕(二六八) 前主トハ授受セシ物件ノ前所有者ヲ云フ而シテ前主ノ
占有ハ相續人及ヒ包括若クハ特定ノ承繼人即チ受遺者買主受贈者等
ノ占有ニ併合シ又ハ繼續スルコトヲ得ルモノナレド相續人其他包括權
原ノ承繼人ト特定權原ノ取得者トハ稍異ナル所アリ即チ前者ハ前主

ノ身分ヲ承繼シ全然其代表者タルヲ以テ前主ノ占有ヲ其儘繼續スル
モノニシテ其占有ノ性質及ヒ瑕疵ノ如キ少シモ變狀スルコトナシ即チ
前主ニシテ善意ノ占有者ナリシモハ相續人ハ縱令惡意ナリシニモセ
ヨ前主ノ占有セシ時間中ニ在リテハ善意ノ占有者トシテ時効ノ期間
ヲ通算シ以テ時効ヲ取得スルカ如キ是ナリ然リ而シテ後者ハ之ニ反
シテ前主ノ身分ヲ承繼スルコトナク唯々前主カ其物ニ付テ有セシ所ノ
總テノ權利ヲ承繼スルモノトス故ニ買主受贈者等ハ前主ノ占有ヲ自
己ノ占有ニ併合シ得ルモノニシテ或ハ自己ノ占有ノミヲ申立テ或ハ
之ヲ併合シテ申立ツルコトヲ得ルナリ

財産編第九十二條ノ規定ハ略シ此ノ如シ而シテ本條ハ唯々該編ニ此
規定アルコトヲ指示セシニ過キサカ故余モ亦々茲ニ之ヲ詳述セス讀
者宜シク該編ノ義解ニ就テ之ヲ知悉ス可キナリ

第六章 動產ノ取得時効

第四百四十四條 正權原且善意ニテ有體動產物ノ占有

ヲ取得スル者ハ即時ニ時効ノ利益ヲ得但第三百三十

四條及ヒ第三百三十五條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

此場合ニ於テ反對カ證セラレサルトキハ占有者ハ

正權原且善意ニテ占有スルモノトノ推定ヲ受ク

〔義解〕(二六九) 本條ハ動產ノ取得時効ニ係ル原則ヲ定メタルモノナ

リ

有體動產物ヲ占有シテ而シテ其占有ヲ取得セシコノ正權原且善意ニ

出テシトキハ其占有ヲ取得セシ即時ニ時効ノ利益ヲ得テ最早他人ノ

之ヲ奪フコトヲ得ス是ヲ之レ即時々効ト云フナリ但配偶者間及ヒ財

產ノ管理人ト其被管理者トノ間ニ於テハ格別ナリトス第三百三十四條及ヒ三十五條參看

然ラハ則チ即時時効ヲ取得スルニハ常ニ正權原且善意ノ二條件ヲ具

備セサル可カラスト雖モ然レモ此二條件タルヤ占有者自カラ之ヲ證

明スルコトヲ要セス即チ法律ハ當然二條件ノ具備セルモノト推定ス

ルモノニシテ相手方カ若シ其否サルコトヲ主張セント欲セハ彼レ必

ス之ヲ證明セサル可カラスト故ニ占有者ハ此二條件ノ爲メニ困シムコ

ト少ナク實際ニ於テハ單ニ占有ノ一事ヲ以テ所有者ト看做サル、モ

ノナリ

然ルニ占有者ハ所有者ナリトノ推定ハ法律上普通ノ推定ニシテ必ス

シモ動產ニ限ルニ非ス不動產ニ付テモ亦々此推定アルモノナリ故ニ

本條カ動產ニ付テ此規定ヲ爲セシハ一層其推定ヲ鞏確ニシテ第七十

六條ニ依リ反對ノ證據ヲ許サス即チ所有者モ之ヲ取戻スコトヲ得サラ

シムルニ在リ之ヲ詳言スレハ此推定ハ動產、不動產ニ付キ等シク適施

スト雖其鞏確ニシテ物件ヲ占有者ヨリ取戻ス能ハサルニ至ルハ不
動産ニ付テハ占有後三十个年(若クハ十五个年)ヲ經ルヲ要シ動産ニ付
テハ占有ノ即時ヨリシテ然ルモノナリ但第四百四十五條及ヒ第四百十
八條ノ場合ハ特別ナリトス

〔二七〇〕本條規定ノ理由如何蓋シ動産ハ之ヲ授受讓渡スルニ際シ法
律上ヨリシテ書面ヲ要スルコトナク習慣上ニ於テモ亦タ固ヨリ書面
ヲ作ルヲ稀ナリ不動産ノ如キハ之ニ反シテ授受ヲ爲スニ際シ書面ヲ
以テ所有權アルヲ證シ之ヲ讓受クル者モ亦タ證書ヲ作りテ其事ヲ
證セサルナシ例ヘハ一ノ家屋ヲ買ハントスルニハ賣主ニ對シテ其之
ヲ所有スルノ權利ヲ示サントテ求メ若クハ登記役所ニ赴キテ其帳簿
ヲ檢スレハ決シテ過誤ニ陷ルノ憂ナカル可キニ此等ノ注意ヲ爲サス
シテ之ヲ買受ケシキハ他ヨリ眞所有者ノ出テ、之ヲ取戻スモ買主ハ

不注意ノ制裁トシテ其不幸ヲ辭スル能ハサル可シ然ルニ動産ニ付テ
ハ之ニ反シテ權證ヲ有スル者少ク且登記ノ法規ナケレハ如何ニ注意
周到ナル買主ト雖モ亦タ賣主カ占有セル事實ヲ以テ彼カ之ヲ正當ニ
所有スルモノナラント認識セサルヲ得ス而シテ之ヲ買受クルニモ亦
タ證人ヲ求メ又ハ賣買證書ヲ作ルヲナキテ常態トス故ニ苟モ正權原
且善意ニテ占有シタル者ハ之ヲ所有者ト看做シ他ヨリ取戻ス能ハサ
ルトト一定セサレハ眞ニ所有ヲ得タル者ニシテ其權證ナキカ爲メ若
クハ賣主ノ詐欺ノ爲メ不正ニ奪取セラル、カ如キヲナキニ非ス是レ
此規定アル所以ノ第一理由ナリトス
本條カ特ニ有^〇躰動産物ニ限リ債權、年金權ノ如キ無躰動産物ニ此規定
ヲ適用セサルトト爲セシハ亦タ右ノ理由ニ出テシモノニシテ即チ這
般ノ動産ハ(第一)書面ヲ以テ其所有權ヲ證明スルモノナレハ何人ノ所

有ナルヤヲ檢認スルヲ甚々容易ニ且第二其移轉流通スルヲ頗ル稀少ナルニ因ルナリ

茲ニ注意ス可キヲアリ無記名債權證書ハ原是レ無牒タル債權ノ證據ニ過キサレモ證書ノ無記名ナルヤ其所持人カ果シテ真正ノ所有者ナルヤ否ヤヲ知ルヲ難ク殊ニ證書其モノハ殆ント債權其モノト區別シ難キカ故其性質ヨリシテ之ヲ有牒動產物ノ一ニ列ス可キモノナレハ則チ無記名債權ハ有牒動產物トシテ本條規定ノ支配ヲ受ケサル可カラサルナリ

〔論說〕(二七一) 本條ノ規定ニ付キ非議ヲ唱フル者アリ曰ク此規定ハ時効ノ要素タル期間ナキノ背理アルノミナラス徒ラニ占有者ニ便ナルモ眞所有者ハ爲メニ甚シキ不幸ヲ被ムル可シト然レモ即時々効ヲ主張スル者ハ之ニ答ヘテ曰ク此ノ如キ非議ハ到底此規定ヲ動かスノ

力アルヲナシ試ミニ本條ノ場合ヲ想像シ而シテ借受人若クハ受託者ヨリ占有ヲ得タル者買主ノ如キアリト假定セヨ固ヨリ借用品受託品ヲ他人ニ讓渡スルハ其所爲頗ル惡ム可シ然リト雖モ此ノ如キノ徒ニ物件ヲ貸與シ若クハ委託セシハ所有者ノ誤信ニシテ一ノ過失ニ外ナラス然ルニ占有ヲ得タル者即チ買主等ニ至リテハ其賣主ノ眞所有者ニ非サルヲ知ラザリシトテ些兒ノ過失トモ云フ可カラサルハ前段ニ述ヘタル如シ然ラハ則チ孰レカ一人ヲ保護セントセハ寧ロ眞所有者ヲ顧ミスシテ占有者ヲ保護セサル可カラス何トナレハ彼ハ過失アルモ此ハ過失ナケレハナリ然リ而シテ能ク其保護ノ目的ヲ達セント欲セハ即時ニ時効ノ成ルモノト爲サ、ルヲ得ス何ソ時効ト云フ名ニ眩惑シテ或ル期間ヲ設クルヲ得ンヤ且夫レ動產ハ其轉移極メテ迅速ニシテ且ニ甲者ノ所有ト爲リ夕ニ乙者ノ所有ニ變シ頃刻ノ間ニ輪

轉シテ數人ノ手ヲ經ルコト亦タ尠カラス然ルニ眞所有者ハ之ヲ占有者ヨリ取戻スコトヲ得ルトセハ占有者ハ其償金ヲ賣主タリシ丁者ニ求メ丁者ハ丙者ニ丙者ハ乙者ニ遂ニ溯回シテ甲者ニ至ラサレハ已マス然ルニハ一ノ取戻ニ付キ數個ノ訴訟ヲ生シ且其訴訟ハ甚ダ錯雜セルモノト爲ラン是レ公ノ秩序ヨリシテ甚ダ忌ム可キ所ナリトス又假リニ占有ノ時間ヲ定メ若干ノ時日ヲ經ルヲ俟テ取戻スヲ得サルコトト爲セハ其占有ヲ得タル時ト取戻ノ訴ヲ受ケタル時トニ付テ必スヤ許多ノ紛争ヲ生シ占有時間ノ幾何ナリシヤハ容易ニ判定シ難ク(不動産ト異ナリ)遂ニ至難ノ訴件ヲ生スルニ至ラン當タ然ルノミナラス若シ取戻ヲ許スコトトセハ人々危惧ノ念ヲ抱キ信用地ヲ拂フテ動産ノ移轉大ニ減シ就中商業ノ如キハ遂ニ衰靡スルニ至ラン此故ニ公益上ヨリ之ヲ觀ルニ到底此規定ナカル可カラズ即チ本條ノ規定ハ公平ト公ノ

秩序トノ二點ヨリ出テタルモノニシテ能ク正義ト必要トニ適合セルモノト云フ可キナリト

第一百四十五條 動産物ノ占有者カ正權原ヲ有シ且善

意ナル場合ニ於テモ其物カ所有者ノ盜取セラレタルモノ又ハ遺失シタルモノナルトキハ其所有者ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二个年間ハ占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得但占有者カ其物ヲ有償ニテ受ケタルトキハ其讓渡人ニ對スル求償ヲ妨ケス

背信ニ因リテ隱匿シ又ハ詐欺ヲ以テ得タル物ニハ本條ヲ適用セスシテ前條ノ規定ニ從フ

〔義解〕(二七二) 本條ハ前條ニ對スル二個ノ例外ヲ規定シタルモノナ

夫レ前條カ動産ノ取得時効ニ係ル原則ヲ定メテ即時ニ時効ノ利益ヲ得セシムルトト爲セシハ所有者ノ爲メニ甚ダ酷ナルカ如シト雖モ借用品、受託品等ヲ他人ニ讓渡スルカ如キ不正ノ徒ニ物件ヲ貸與シ若クハ寄託セシハ所有者ノ過失ニシテ占有者即チ其讓受人ハ毫モ過失ナキニ因リ寧ロ占有者ヲ保護セルモノナリトハ既ニ前條ニ述ヘタル所ナリ然ルニ他人ヨリ盜取セラレ若クハ偶然遺失スルハ普通ノ注意アル所有者ト雖モ亦ダ豫防シ得ヘカラサル事實ニシテ之ヲ其過失ト云フ可カラズ而シテ其盜取品若クハ拾得物ヲ素人ヨリ(第四百四十六條ノ場合ニアラス)取得シタル者ハ如何ニ正權原ヲ有シ且善意ナリシト云フモ稍、其不注意ノ過失アルヲ免カレス即チ此二個ノ場合ニ於テハ過失ノ責アル者カ普通ノ場合ト相反對スルニ因リ之ヲ前條ノ例外トシ

占有者カ前條ノ二條件ヲ具備セルニ關ハラス寧ロ所有者ヲ保護シ以テ二個年間ハ占有者(盜取者ニ非サル占有者ヲ云フ何トナレハ盜取者ニ對シテハ三十個年間其物ノ回復ヲ請求スルヲ得レハナリ第四百四十八條ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルヲ得セシメリ然レモ占有者カ其物ヲ有償ニテ占有セシ場合ナレハ讓渡人ニ對シテ其損害ヲ賠償セシムルヲ得ルモノトス但盜取者ノ如キハ事實無能力者ナルヲ以テ或ハ満足ナル辨濟ヲ得ル能ハサルノ不幸ハ之ヲ免レサルヲアル可シ二個年ノ期間ハ占有者カ占有ヲ得タル日ヨリ起算セスシテ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ起算スルモノトス故ニ占有者ハ占有後間モナク此取戻ヲ免ル、トモアル可キナリ

(二七三) 草案ニ於テハ此例外ヲ制限シテ占有者カ盜取者、其從犯人又ハ拾得者、其代人等ヨリ直チニ其物ヲ收受セル場合ニノミ止メダリキ

然レモ本條ハ之ヲ修正シタルカ故盜取者又ハ拾得者ヨリ直チニ收受シタルト其間二三ノ人ノ手ヲ經タルトテ問ハサルナリ是レ如何ナル場合ニ於テモ所有者ニ過失ナキハ則チ同一ナルハ之ヲ保護セサル可カラサルカ爲メニシテ修正其當ヲ得タルモノト謂フ可シ

〔二七四〕第二項ハ立法者ノ婆心特ニ注意ヲ與ヘシモノニ過キス即チ背信ニ因リテ他人ノ物ヲ隱匿シ又ハ詐欺ヲ以テ之ヲ得タルハ其惡ム可キヲ盜取拾得ト大差ナキニ因リ或ハ世人ノ之ヲ本條ノ場合ト同一視セントテ恐レ其前條ノ規定ニ從フ可キモノナルトテ明示シタルナリ蓋シ受寄財産費消又ハ詐欺取財冒認罪等ノ所爲ニ罹ル所有者ハ已ニ過失アルヲ免レサルモノニシテ當ニ前條ノ規定ニ從フ可キノミナラス前條ノ規定ハ殆シト常ニ這般ノ場合ニ於テ其適用ヲ見ル可キモノナルナリ

第四百十六條 盜取セラレ又ハ遺失シタル物ヲ競賣又ハ公ノ市場ニ於テ又ハ此類ノ物ノ商人若クハ古物商人ヨリ善意ニテ買受ケタル者アルトキハ所有者ハ其買受代價ヲ辨償スルニ非サレハ回復ヲ爲スコトヲ得ス

此場合ニ於テハ右ノ代價ニ付キ所有者ハ賣主ニ對シ又賣主ハ讓渡人ニ對シテ求償權ヲ有シ終ニ盜取者又ハ拾得者ニ遡ル

〔義解〕〔二七五〕前條ノ場合ニ於テ占有者カ其盜取セラレ又ハ遺失シタル物ノ占有ヲ得タルハ競賣又ハ公ノ市場ニ於テ又ハ其物ト同種類ノ物ヲ販賣スル商人若クハ古物商人(是レ其種類ノ如何ヲ問ハス總テ古物ヲ賣買スルモノナレハナリ)ヨリ善意ニテ買受ケシモノナルトキ

ハ占有者カ其盜取物又ハ拾得物ナリシニ心付カサリシモ是レ決シテ不^〇注意ナリト云フヲ得ス故ニ此場合ニテハ固ヨリ所有者ハ之ヲ取戻シ得ルト雖モ然レモ其買受代價ノ全額ヲ辨償セサル可カラス元來此ノ如キハ人民カ公ノ信用ニ因リ爲シタル契約ニシテ法律ハ之ヲ保護セサルヲ得サルモノトス是ヲ以テ法律ハ所有者ヲシテ占有者カ其嗜好又ハ需要ノ爲メ愛着シタル物ヲ奪ハシムルヲ許スモ亦タ占有者ヲシテ所有者ヨリ其代價ヲ取戻シ因テ以テ其利益上ノ迷惑ヲ免レシムルナリ

然リト雖モ所有者ハ固ヨリ自己所有ノ物ヲ取戻スモノナレハ結局其代價ヲ支拂フノ理ナキカ故此物ニ因リテ代價ヲ占有者ヨリ受取リタル所ノ賣主ニ對シテ求償權ヲ有スルナリ而シテ又賣主ハ其讓渡人ニ對シテ求償權ヲ有シ終ニ溯リテ盜取者又ハ拾得者ニ至リテ止ムモノ

トス例ヘハ乙カ甲ノ所有セル古器物ヲ盜取シテ之ヲ其夥伴丙ニ賣リ丙ハ之ヲ骨董商丁ニ賣リ丁ハ之ヲ其顧客戊ニ賣リシ場合ニ於テハ甲ハ其代價ヲ戊ニ拂フテ之ヲ取戻シ而シテ戊ニ拂ヒシ代價ハ之ヲ丁ニ求償シ丁ハ丙ニ丙ハ乙ニ又之ヲ求償ス可シ是ニ於テ乎物件代價各其舊ニ復シ曾テ盜取ノ一事ナカリシ當時ノ景狀ニ復歸スルモノナリ若シ右ノ場合ニ丁カ非商人ナリ又ハ該品ト同種類ノ商人ヲラサルモハ戊ハ甲ヨリ代價ノ辨償ヲ受クルヲナクシテ返還セサル可カラサルヲ以テ其代價ハ之ヲ丁ニ請求セサル可カラス而シテ丁ヨリ遂ニ溯リテ乙ニ至ルモノトス故ニ戊ハ孰レノ場合ニ於テモ共ニ求償權ナキニ非スト雖モ其相手方ニシテ資力ナキモハ權利アルモ殆ト虛名ニ屬スルヲ以テ其相手方ノ甲ナリ丁タルハ大ニ利害ノ差異ヲ實地ニ生シ來ル可シ且夫本條ノ場合ニ於テハ甲カ代價ヲ支拂フマテ物件ヲ留置

スルヲ得ルモ之ヲ丁ヨリ受ク可キ場合ハ其留置權ヲ行フニ由ナク
物品ハ甲ヨリ奪ハレ丁ハ代價ヲ拂ハサルノ不幸ニ陷ルコトナシト
セス故ニ本條ノ規定ハ一見不急ナルカ如キモ其實甚ダ重要ノモノダ
ルナリ

第四百四十七條 無記名債權證書ヲ盜取セラレ又ハ遺

失シタル場合ニ於テ其證書回復ノ期間及ヒ條件ハ

特別ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

〔義解〕(二七六) 無記名債權證書ハ有體動產物ノ一ニ列ス可キヲ前述
ノ如シト雖モ其盜取セラレ又ハ遺失シタル場合ニ限リテハ之ヲ前二
條ノ例ニ從ハシムルヲ得ス蓋シ此等ノ證書ハ多クハ株式取引所ニ
於テ賣却セラル、カ故前二條ヲ適用スルヲ爲セハ所有者ハ常ニ之
カ代價ヲ辨償スルニ非サレハ其占有者ニ對シテ之カ取戻ヲ爲スヲ

得サルニ至ラン故ニ其回復ノ期間及ヒ條件等ニ付テハ一ノ除外例ヲ
設ケサル可カラス本條ハ即チ之ヲ特別規則ニ委スルヲ定メタルナ
リ而シテ此特別規則ハ已ニ民事訴訟法第七百七十七條以下數條ノ定
ムル所ナレハ就テ見ル可シ

第四百四十八條 上ノ場合ニ於テ回復者カ占有ノ無權

原タリ又ハ惡意タルコトヲ證スルトキハ時効ハ三

十年ヲ經過スルニ非サレハ成就セス

〔義解〕(二七七) 以上數條ニ於テハ正權原且善意ノ占有ニ付テ規定シ
來リタルカ本條ハ其反對ノ場合ヲ規定シタルモノナリ
正權原且善惡ノ二條件共ニ缺クシキ若クハ其一ノ缺クシトキ例ハ
占有ノ侵奪ニ因リテ成リシ無權原ノモノタルトキ又ハ惡意ナリシト
キハ其占有者ニ對シ特ニ之ヲ保護スルノ必要ナキノミナラス該占有

者ハ却テ法律ノ嫌斥ス可キモノナルヲ以テ其時効ハ最長ノ期間ニ從ヒ三十个年ヲ經過スルニ非サレハ成就セサルコトト爲セリ然リ而シテ此場合ニ於テハ其占有ハ第三百三十八條ニ於ケルカ如ク繼續シテ中斷ナク且平穩公然ニ所有者ノ名義ニテ占有シタルモノナルコトノ五條件ヲ具備セサル可カラス是レ法理上固ヨリ然ラサルヲ得サル所ナリ

占有ノ無權原又ハ惡意ナルコトハ法律上當然之ヲ推測セス故ニ其回復ヲ請求スル所有者ヨリ之ヲ證明セサル可カラサルナリ
容假ノ占有ハ幾何長久ノ時間ヲ經ルモ時効ヲ生セサルハ言テ俟タス而シテ盜取者又ハ拾得者ハ固ヨリ無權原ニシテ且惡意不正ノ占有者ナレハ固ヨリ即時々効ノ利益ヲ受クル能ハサルコト勿論ナリト雖モ然レモ兎ニ角不正ニモ所有者トシテ其物ヲ占有スルモノナレハ容假ノ

占有ニ非サルヲ以テ本條ニ因リ三十个年ニシテ時効ヲ取得スルモノナリ

第四百十九條 上ノ規定ハ用方ニ因リテ不動産ト爲

リタル動産カ其附着シタル不動産ヨリ分離セラレタル場合ニ於テハ其動産ニ之ヲ適用ス

上ノ規定ハ財産編第十二條ニ從ヒ用方ニ因ル動産ニ之ヲ適用セス但其物カ土地ヨリ分離シタルトキハ此限ニ在ラス

又上ノ規定ハ記名債權ニモ包括動産ニモ之ヲ適用セス但此等ノ物ニ關スル時効ノ期間ハ第三百三十八條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒ不動産ニ關スルモノト同一ナリ

〔義解〕(二七八) 本條ハ本章ノ規定ヲ適用スル區域ヲ定メタルモノナ
 リ
 用方ニ因リテ不動産ト爲リタル動産ハ法律カ既ニ之ヲ不動産トシテ
 視タルノミナラス事實ニ於テ不動産ニ附著セルカ故動産トシテ之ヲ
 占有スルヲ得サルナリ然レモ若シ其動産カ一旦不動産ヨリ分離セ
 ラレタルモハ其動産タル本質ニ復歸シ且事實動産トシテ占有スルヲ
 得ルニ因リ本章ノ規定ヲ適用ス可キヤ殆ノト明文ヲ要セサル所ナリ
 トス

〔二七九〕 右第一項ハ動産ニ適用スルニ動産ノ規定ヲ以テスト云フニ
 異ナラサレモ茲ニ動産ニシテ此規定ヲ適用セス却テ不動産ノ規定ヲ
 適用ス可キモノ三種アリ
 第一 用方ニ因ル動産○是レ其本質ハ不動産タリト雖モ用方上法律

ハ之ヲ動産視セルモノニシテ時効ニ付テハ之ヲ例外ト爲サル可カ
 ラス縱令一時ニ止マルニモモセヨ其土地ニ附著セルニ於テハ之ヲ動産
 トシテ占有シ得ヘカラサレハナリ然レモ其土地ヨリ分離セラレタル
 片ハ亦之ヲ動産トシテ占有シ得ルニ因リ此場合ハ即チ本章ノ規定
 ニ從ハサル可カラス

第二 記名債權○是レ純然タル動産ナリト雖モ前第三百十八條ニ一言セシ
 如ク這般ノ動産ハ書面ヲ以テ其權利ヲ證明スルモノニシテ何人ノ所
 有ナルヤ之ヲ檢認スルヲ甚ダ容易ナルニ因リ特別法ノ性質アル本章
 ノ規定ヲ適用スルノ必要ナク寧ロ前章ノ規定ニ從ハシムルヲ妥當ト
 爲スナリ

第三 包括動産○是レ有躰ト無躰トヲ問ハス數箇ノ動産相合シテ一
 團ヲ成セルモノナリ是レ亦之ヲ證書アリテ何人ノ所有ナルカヲ檢知ス

ルハ容易ノトタルヲ常トスルニ因リ動産ニ係ル短促ノ時効ヲ適用スルノ必要ナシ例ヘハ或人カ余ニ向テ死者某ヨリ相續セシ遺留財産中ノ動産全部ヲ賣却セント言込ミシキ余ニシテ其者カ果シテ之ヲ相續セシヤ否ヤヲ檢知セント欲セハ其遺言書等ヲ一覽セハ可ナリ然ルニ若シ輕忽其言ヲ妄信シ證書等ノ檢閲ヲ爲サスシテ之ヲ買受クルアラハ是レ余ノ過失ナルヲ以テ他日真相續者ノ取戻ニ遇フモ余ハ安ソソ余カ善意ナリシヲ述ヘテ以テ即時時効ヲ主張スルコトヲ得ンヤ

〔論說〕(二八〇) 人アリ曰ク記名債權ハ實ニ動産ノ取得時効ニ係ル規定ヲ適用ス可カラサルノミナラス時効ニ依テ之ヲ取得ス可キモノニ非サルナリ元來債權ナルモノハ無體物ニシテ之ヲ占有スルコトヲ得ス且假リニ之ヲ占有シタリトスルモ我ニ債權ナクシテ債權ヲ行フハ是レ不當ノ利得ヲ得ルモノナリ當ニ其規定ニ從ハサル可カラスト然レ

此是レ的ニ一ヲ知テ未ダ其二ヲ知ラサルノ説タリ占有トハ必スシモ有形ニ物ヲ所持スルノミヲ云フニ非ス權利ノ行使モ亦タ一ノ占有ナルコトハ財産編第百八十條ノ既ニ明示セル所ニシテ每期ニ利息ヲ請求シ若クハ抵當ノ保存ヲ爲ス等ノコトハ即チ債權ヲ行使スルモノナリ然リ而シテ未ダ曾テ成立タサル債權ハ之ヲ占有セント欲スルモ亦タ能ハスト雖モ既ニ他人間ニ成立セシ債權ハ之ヲ占有シ得ルコトナキニ非ス例ヘハ甲者カ乙者ヨリ若干ノ金圓ヲ借り受ケタルニ其後乙者死亡シテ該債權ハ其法定相續人タル丙者ニ移轉シタリト假定セヨ此場合ニ於テ乙者ノ親族丁者カ丙者ノ久シキ以前ヨリ不在ナルヲ奇貨トシ甲者ニ對シテ己レ相續人ナリト稱シ其債權ヲ行使スルアラハ丁者ハ即チ債權ヲ占有セルモノニシテ法定ノ期間(此場合ハ惡意ナルニ因リ三十个年)ヲ經過スレハ當然時効ヲ取得スルモノト云ハサル可カラサ

ルナリ

第七章 免責時効

第一百五十條 義務ノ免責時効ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ三十个年間之ヲ行ハサルニ因リテ成就ス但法律上別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權ヲ時効ニ罹ラサルモノト定メタルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕(二八一) 本條ハ義務ノ免責時効ニ係ル原則ヲ定メタルモノナリ
時効ニ取得時効ト免責時効トノ二大區別アルハ吾人ノ既ニ知了セル所ナリ即チ取得時効ハ積極的ノモノニシテ權利ノ取得ニ係リ免責時効ハ消極的ノモノニシテ義務ノ責ヲ免ル、モノナリ

免責時効ハ二個ノ要素ヲ具備スルニ因リテ成ルモノトス

第一 債權者ノ無爲○凡ソ人タルモノ少許ノ權利ヲ有スルヤ寸時モ速ニ之ヲ行ヒ以テ其利益ヲ得ントスルヲ普通ノ情勢トス故ニ事實權利ヲ有シテ而シテ其權利ノ已ニ之ヲ行ヒ得ヘキノ時期ナルニ於テハ必ス之ヲ行ハサルノ理ナシ然ルニ債權者ニシテ之ヲ行フヲナク遂ニ法定期間ノ久シキヲ經過スルハ彼ノ既ニ其辨濟ヲ得タルカ爲メタルニ外ナラスト思惟スルハ普通ノ推定ナリ此推定ハ即チ免責時効ノ基礎ニシテ反對ノ證據アリト雖モ債權者ハ之ヲ破ルトトチ得サルモノトス

第二 三十个年ノ滿了○此期間ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ起算スルモノトス故ニ有期義務ニ付テハ其期間滿了ノ日ヨリ又條件付義務ニ付テハ其條件成就ノ時ヨリ起算ス可キナリ

蓋シ債權者ノ無爲三十个年ノ久シキニ及ヒシハ已ニ其辨濟アリシカ
爲メナラント推定スルニ在リ是レ此二要素ノ免責時効ニ缺ク可カラ
サル所以ナリ

本條但書ハ此原則ニ例外アルヲ示セシニ過キス而シテ其例外即チ
別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權ヲ時効ニ罹ラサルモノト定メタル成規
ハ次章ノ規定ヲ首トシ本法各編及ヒ商法其他ノ諸法ニ散在シ茲ニ之
ヲ枚擧スルニ違アラサルナリ

此等ノ例外ヲ除クヤ其他ノ總テノ債權ハ債務者ノ善意ト惡意トヲ問
ハス皆ナ三十个年ニシテ此時効ニ罹ラサルハナシ而シテ債務者ハ只
タ三十个年ヲ經過セシヲ證明スルヲ以テ足レリトシ決シテ債權者
ヨリ曾テ督促ヲ受ケシコトナキ證據及ヒ辨濟ヲ爲セシ證據ヲ出タス
ヲ要セス是レ時効ノ時効タル所以タリ何トナレハ期間其モノハ即

チ權證ノ用ヲ爲スモノナレハナリ

第一百五十一條

債務ノ元本カ年賦ニテ辨濟ス可キモ

ノタルトキハ利息ヲ包含スルト否トヲ問ハス時効
ハ各年賦ノ要求期ニ達シタル時ヨリ各別ニ之ヲ算
ス

〔義解〕(二八二) 本條ハ年賦ニ係ル債務ニ付テ前條原則ノ適用法ヲ示
シタルニ過キス例ヘハ明治元年ニ金千圓ヲ貸與シ其年ヨリ毎年十二
月末日ニ百圓宛十个年ニテ之ヲ濟了ス可シト約定シタル場合ニ於ケ
ル免責時効ノ期間ハ各年賦ノ要求期ニ達シタル時ヨリ各別ニ之ヲ計
算スルモノトス故ニ明治元年ニ支拂フ可キ百圓ニ付テハ明治三十二
年一月ニ至リ明治二年ニ支拂フ可キ百圓ニ付テハ明治三十三年一月
ニ至リ又明治十年ニ支拂フ可キ百圓ニ付テハ明治四十一年一月ニ至

リテ其時効成就スルモノトス此計算法タル必竟前條ノ「債權者カ其權
利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ……」トアル規定ノ適用ニ過キサレ
立法者ハ世人ノ誤惑ヲ防カンカ爲メ特ニ之ヲ明示シタルモノナリ
此規定ハ年賦ニテ辨濟ス可キ元本ニ付テ云ヘルモノナレハ年々ニ支
拂フ可キ利息ト混同スル勿レ然レモ其元本ニ利息ヲ包含スルト否ト
ハ固ヨリ問フ所ニ非ス故ニ年賦ノ百圓ニ年々ノ若干ノ利息ヲ包含ス
ルモ其時効ハ依然異ナル所ナキナリ

第百五十二條 債權カ無期又ハ終身ノ年金權ナルト
キト雖モ其時効ハ證書ノ日附ヨリ三十个年ヲ以テ
成就ス

然レトモ右ノ日附ヨリ二十八个年ノ後ニ至リ債權
者ハ債務者ニ對シ時効ヲ中斷スル爲メ雙方ノ費用

ヲ以テ其權利ノ追認證書ヲ得ント要求スルコトヲ
得

若シ債務者右ノ要求ヲ拒絕シ債權者裁判上自己ノ
權利ヲ追認セシムル必要アルトキハ其費用ハ全ク
債務者ノ負擔タリ

〔義解〕(二八三) 本條ハ年金權ニ關スル時効ノ適用ヲ示シ併セテ之カ
特殊ノ規定ヲ設ケタルモノナリ

年金權モ亦タ一種ノ債權ナレハ總テノ債權ト同シク第百五十條ヲ適
用シテ三十个年ノ時効ニ從フ可キヤ言フ俟タス然レモ是ニ付テハ少
シク特殊ノ事情アルヲ以テ別ニ本條ヲ設ケタルナリ

抑年金權トハ年々若干ノ金圓ヲ支拂ハシムル權利ニシテ無期年金權
及ヒ終身年金權ノ二種アリ例ヘハ甲者乙者ト契約シ乙者ヲシテ毎年

金千圓ヲ甲者ニ支拂ハシムルハ其千圓ヲ年金ト云ヒ其年度及ヒ將來ノ各年度ニ於テ千圓宛ヲ要求シ得ル權利ヲ年金權ト云フ而シテ其債權者又ハ債務者又ハ第三者ノ終身ヲ期スルモノハ即チ終身年金權ニシテ其期間ノ設定ナキモノハ即チ無期年金權ナリ

年金權ハ此二種アリト雖モ其孰レタルニ論ナク總テ證書ノ日附即チ年金權發生ノ初年ヨリ三十个年ヲ以テ時効ニ罹ルモノトス故ニ其年金ノ支拂ナキト三十个年ノ久シキニ及ヒ債權者モ亦タ其中斷ヲ行ハサリシトハ年金權ハ時効ニ因リテ消滅スルモノナリ蓋シ無期年金權ニ付テハ債務者ハ如何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取リタル元本ヲ辨濟シ以テ其年金權ヲ消滅セシムルヲ得ヘシ財產取得編第九十二條故ニ年金ノ支拂ナキト三十个年ニ及フヤ法律ハ其元本ノ辨濟アリシモノト推定スルナリ而シテ終身年金權ニ付テハ債務者特別ノ合意アルニ

非サレハ元本ノ辨濟即チ買戻ヲ爲スヲ得ス同編第一百一十一條雖モ更改又ハ釋放等ノ手段ニ因リ年金權ヲ消滅セシムルヲ得ヘシ故ニ是レ亦タ其年金ノ支拂ナキト三十个年ニ及フヤ法律ハ其年金權ノ或ル手段ニ因リ消滅シタルモノト推定スルナリ

年金權ハ之ヲ年金其モノト混同ス可カラス即チ年金權ハ本條ニ依リ三十个年、年金ハ第百五十六條ニ依リ五個年ニシテ時効ニ罹ルモノトス

《二八四》本條第二項ハ證書ノ日附ヨリ二十八个年ヲ經レハ債權者ハ時効ヲ中斷スル爲メ債務者ニ其權利ノ追認證書ヲ作ラシムルヲ得ルモノト爲セリ元來債權者ハ年金ノ支拂ヲ受クレハ以テ時効ヲ中斷スルモノナルニ何トナレハ債務者カ年金ヲ支拂フハ其債務ヲ追認スルモノナレハナリ更ニ追認證書ヲ作ルヲ強ユルハ何ソヤ蓋シ此

規定ハ頗ル實際ニ生ス可キ事情ヲ想像シテ債務者ノ狡獪ナル抗辯ニ
 因リ不正ニ損害ヲ被ル可キ債權者ヲ保護セシモノナリ例セハ債務者
 カ年々其負擔セル年金ヲ支拂ヒテ三十年ニ滿ツルヲ待チ抗顔主張
 シテ曰ク「彼レ債權者ハ三十年間黙過シタルハ此年金權ハ時効ニ依
 テ消滅セリ」ト是ニ於テ債權者ハ其年々年金ヲ受取リタル事實ヲ擧ケ
 テ黙過ニ非サルノミナラス屢之ヲ中斷セシコトヲ證明セント欲スルモ
 何ニ依テ其受取リシ事實ヲ證明スルヲ得ンヤ受取證ハ固ヨリ之ヲ債
 務者ニ渡シタルモノナレハ債務者ハ決シテ之ヲ出サ、ル可シ是ヲ以
 テ債權者ハ遂ニ債務者ノ不正ナル手段ニ敗訴スルニ至ラン然ラハ則
 チ債權者ハ如何ニシテ之ヲ防ク可キ歟他ナシ唯々其時効ノ期限未ダ
 滿タサルニ及ヒ債務者ヲ強テ其權利ヲ追認セル證書ヲ作ラシムルノ
 一方法ヲ存スルノミ是レ此規定アル所以ナリ

右ノ證書作成ノ費用ハ雙方之ヲ分擔スルモノトス然レモ債務者カ頑
 然證書作成ノ要求ニ應セサルヨリ債權者カ遂ニ已ヲ得ス之ヲ出訴シ
 テ裁判上其追認ヲ爲サシムルハ其事タル全ク債務者ノ過失ニ出ツ
 ルモノナルヲ以テ其費用ハ獨リ債務者全ク之ヲ負擔ス可キナリ

第一百五十三條 動産質又ハ不動産質ノ返還ヲ得ル爲

メノ對人訴權ハ適法ナル方法ニ因リテ債務ノ消滅
シタル後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

〔義解〕(二八五) 本條ハ質物ノ返還ヲ得ル爲メノ對人訴權ニ係ル時効
 ノ起算點ヲ示シタルモノナリ

夫レ質物ハ其動産質ナルト不動産質ナルトヲ問ハス總テ債務ノ擔保
 ニ供スル爲メ債權者ニ占有(容假ノ占有)セシムルモノニシテ債務ノ消
 滅シタル後ニ非サレハ債務者ハ其返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノト

ス然リ而シテ其債務ノ既ニ消滅スルヤ債權者ハ最早質物ヲ占有スルノ權利ナクシテ之ヲ債務者ニ返還スルノ義務アリ故ニ債務者カ此返還ヲ請求スル對人訴權ヲ行フハ固ヨリ其債務消滅ノ後ニ於テス可キモノニシテ隨テ其返還義務ノ免責時効モ亦之ヲ其債務消滅ノ時ヨリ起算ス可キヤ殆ソト本條ヲ俟テ知ル可キ所ニ非ラス

第八章 特別ノ時効

第五百十四條 人ノ身分ニ關スル訴權ハ法律カ其行使ヲ特別ノ期間ニ繋ラシムル場合ニ非サレハ時効ニ罹ラス

〔義解〕(二八六) 本條ハ或ル訴權ノ時効ニ罹ラサルコトヲ示シタルモノナリ

人ノ身分ニ關スル訴權トハ例ヘハ婚姻ノ無効ヲ主張スルカ如キ又ハ

戸籍ニ誤テ庶子ト記載シアルヲ正當ノ子ニ改メントスルカ如キ訴權ヲ云フ此訴權ハ法律カ其行使ヲ特別ノ期間ニ繋ラシメ其期間内ニ非サレハ之ヲ行使スルコトヲ得スト特ニ規定シタル場合ノ外時効ノ爲メニ左右セラル、コトナキヲ以テ原則トス故ニ正當ノ子ニシテ戸籍上庶子ト爲リ居ルニ其改正ヲ求ムルコトノ遅延スルモ爲メニ其訴權ヲ失フコトナシ又之ニ反シテ庶子カ戸籍上長ク正當ノ子ト爲リ居ルモ爲メニ正當ノ子タル身分ヲ取得スルコトヲ得ス即チ人ノ身分ハ免責時効及ヒ取得時効ニ因リ共ニ移動ヲ生スルノ理ナキナリ
故ニ身分ノ占有ナルモノアリテ人事編第九十四條子タルノ分限ヲ得若クハ私生子カ親子ノ分限ヲ得ルコトアルモ是レ唯々或ル事實ノ湊合ニ因リ此効果ヲ生スルモノニシテ時ノ効力ニ關スルモノニ非サルナリ然レモ此原則ハ一二ノ例外即チ法律カ其訴權ノ行使ヲ特別ノ期間ニ繋ラシ

メタル場合アリ例ヘハ夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ルトキハ出生ヨリ三
个月内ニ限り否認訴權ヲ行フコトヲ得ト云フカ如キ同編第百二條強暴ニ因
リテ許諾シタル婚姻ノ無効訴權ハ一个年ヲ以テ消滅スト云フカ如キ
同編第六十四條是ナリ

第一百五十五條 相續人又ハ包括權原ノ受遺者若クハ

受贈者ノ分限ヲシテ効用ヲ致サシムル爲メノ遺産
請求ノ訴權ハ相續人又ハ包括權原ノ受贈者若クハ
受遺者ノ權原ニテ占有スル者ニ對シテハ相續ノ時
ヨリ三十个年ヲ經過スルニ非サレハ時効ニ罹ラス

〔義解〕(二八七) 本條ハ遺産請求ノ訴權ニ關スル時効ヲ定メシモノナ

リ 相續人又ハ包括權原ノ受遺者若クハ受贈者ノ分限ヲシテ効用ヲ致サ

シムル爲メノ遺産請求ノ訴權トハ遺産トシテ一團ノ財産ヲ請求スル
モノニシテ間接ニ其分限ノ正當ナルコトヲ主張スルモノヲ云フ故ニ本
條ノ場合ハ其占有者カ相續人又ハ包括權原ノ受遺者又ハ受贈者タル
權ヲ以テ之ヲ占有スル場合ナルニ因リ所謂分限爭ニ關スルモノニシ
テ其結果タル必スヤ死者ノ財産ノ全部又ハ大部分ニ係ル重大問題ニ
屬セリ是ヲ以テ其遺産ノ動産タルト不動産タルトヲ問ハス又其占有
ノ善意ナリシト惡意ナリシトヲ問ハス總テ時効ノトキヨリ起算シテ
三十个年ノ時効ニ從フモノトセリ是ニ由リテ之ヲ見レハ其占有者ヨ
リ更ニ買受ケタル者即チ賣買ノ權原ニテ占有スル者ニ對シテハ普通
ノ場合ニ於ケル如ク此訴權ハ其區別ニ從ヒ時効ニ罹ルモノニシテ動
産ト不動産及ヒ善意ト惡意トニ依リ時効ノ期間ヲ各異ニスル所アル
ナリ

第五百五十六條 免責時効ハ左ニ掲クル諸件ノ辨濟ノ

訴權ニ對シテハ五個年トス

第一 明確ナル金額ノ填補又ハ遲延ノ利息

第二 無期又ハ終身ノ年金權ノ年金

第三 養料又ハ恩給ノ一期ノ支拂金

第四 借家賃又ハ借地賃

第五 果實又ハ日用品ノ每期ノ給與額

第六 教師、番頭、手代、使用人、乳母其他ノ雇人ノ謝

金又ハ給料ニシテ一個年毎ニ定メラレタルモ

ノ

此他一般ニ一個年毎ニ又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メタル金額又ハ有價物ニ係ル債務ニ付テ

モ亦同シ但其辨濟ノ方法如何ニ拘ハラズ且下

ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

〔義解〕(二八八) 本條以下數條ハ或ル訴權ニ關スル時効ノ特別ナル期間ヲ定メタルモノニシテ本條ハ其五個年ノモノニ係レリ

抑、本條列記ノ諸件及ヒ其他一般ニ一個年毎ニ又ハ更ニ短キ時期ヲ以

テ定メタル金額又ハ有價物ニ係ル債務ハ其性質上ヨリシテ之ヲ推ス

ニ五個年ノ久シキ間債權者カ之ヲ要求セスシテ不問ニ付ス可キモノ

ニ非ス然ルニ今マ五個年間之ヲ要求セサリシハ蓋シ既ニ其辨濟ヲ受

取リシニ因ルナラント爲スハ實ニ至當ノ推測ナル可シ是レ此時効ヲ

五個年ニ限制セシ所以ナリ

嘗タ然ルノミナラス此諸件ハ必スヤ五個年ノ時効ヲ用非サル可カラサルモノアリテ存ス何ソヤ公安上ノ理由即チ債務者ノ保護是ナリ彼

ノ辨濟ノ推測ハ其必中ヲ保シ難ク隨テ此規定ノ鞏確ナル基礎ト爲ス
可カラサルモノト假定スルモ若シ這般ノ金額ニシテ五ノ年ノ時効ニ
依ルヲ得ストセハ債務者ハ至重ナル困難ニ陥ルルヲアル可シ抑塵芥
ノ微ナルモ堆積セハ以テ邱阜ヲ成スニ至ラシ債務ノ利息モ亦之ト
同シク數年ノ久シキヲ積メハ其額ハ殆ト元本ニ倍蕪スルモノニシテ
此時ニ及ヒ元利一併ニ之ヲ辨濟ス可シト云ハ、債務者ハ或ハ破産ノ
不幸ヲ免レサルニ至ル可シト雖モ毎月若クハ毎年ニ之ヲ要求セハ債
務者ハ格別ノ苦艱ヲ感セスシテ之ヲ償却スルヲ得ヘケン法律ハ此理
ニ基キ以爲ラク五年間何等ノ要求ヲモ爲サスシテ一朝突然其全額ヲ
要求スルハ債權者ノ懈怠ニ因リ債務者ヲ窮途ニ泣カシムルモノ故其
懈怠ノ制裁トシテ其訴權ヲ消滅セシム可シト然ラハ則チ五ノ年ノ時
効ハ辨濟ノ推測ト債務者ノ保護トノ二個ノ理由ヨリシテ規定セラレ

タルモノト云フ可キナリ

此ノ如ク此規定ハ公安上ノ理由ニ基ツキシモノナレハ草案ハ債務者
ニ於テ縱令未ダ辨濟セサルコトヲ自白スルモ仍ホ此時効ヲ適用スル
コト爲セシカ後遂ニ之ヲ削去シ乃チ第六十一條ノ規定ニ從フコト
爲セリ是レ如何ニ債務者ヲ保護セントスルノ情ニ切ナルモ此ノ如キ
ハ背理ノ甚シキモノナルヲ以テナリ第百六十一條
論說參看

第一百五十七條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ三ノ年ト
ス

第一 醫師、產婆、藥劑者ノ治術、世話及ヒ調劑ニ關
スル其訴權

第二 前條第六號ニ指定シタル教師、使用人其他
ノ者ノ謝金又ハ給料カ一个年ヨリ短ク一个月

ヨリ長キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第三 技師、工匠、測量師、製圖師ノ經畫、意見及ヒ工事ニ關スル訴權

第四 不動産ニ關スル築造、地均其他ノ工作ニ付テノ請負人ノ訴權

〔義解〕(二八九) 本條ハ三ヶ年ノ時効ヲ定メ且之ヲ適用スル訴權ヲ規定シタルモノナリ

第一號ノ事項ハ其治術、世話又ハ調劑ヲ爲セシ隨時ニ報酬ヲ授受スルヲ常トシ否サルモ半季若クハ各歲末ニ之ヲ授受スルモノニシテ慣習上一ヶ年以上ヲ遅延スルコトナキモノトス故ニ此等ノ債權ハ速ニ辨濟アリシモノト推測セサルヲ得ス又第二號ノ謝金又ハ給料ハ多クハ之

ヲ日常生計ノ用ニ供スルモノニシテ其期間亦甚ク短ク約定セラレシキノ如キ是レ之ヲ一日モ不問ニ付スル能ハサルモノナレハ速カニ之ヲ受取リシモノナラント推測セサルヲ得サルナリ

第三、第四號ノ訴權モ亦右ノ如ク決シテ長久ノ間黙過スルコトナク迅速ニ取引ス可キモノタルノミナラス若シ長久ノ時間ヲ經ハ其工作物又ハ不動産ノ原狀如何及ヒ其工事ノ如何等總テ不明ニ歸シ了シテ訴訟上大ニ困難ヲ極ムルノ恐アルカ故公益上迅速ニ其終局ヲ得セシムルノ必要アリ是レ本條カ此等ノ諸件ヲ擧ケテ之ヲ三ヶ年ノ時効ニ從ハシムル所以ナリ

本條ノ諸件殊ニ第二號ノ如キハ其金額支拂ノ期限例ヘハ一ヶ月定メノ場合ノ如キハ時効ハ每一ヶ月ノ終ヨリシテ進行シ隨テ數多ノ時効ヲ生ス可キモノ故第一月分ノ債權ニ付テ時効ノ中斷ヲ爲スモ此中斷

ハ第二月以後ノ債權ニ及フヲナク又最後ノ月ノ債權ニ付テ中斷ヲ爲
スモ以前ノ債權ニハ其効力ヲ及ホサ、ルナリ
此諸件ニ關スル時効ノ起算點ハ各其金額ヲ受取ル可キ日ヨリトス故
ニ每一月ニ支拂フ可キモノハ其各一个月ノ終ヨリシ一各年期ノ雇
人ニ付テハ其一年ノ終ヨリ若シ期間内ニ解雇セラレタルハ其解
雇ノ日ヨリシ又醫師等ニ付テハ其病者ト關係ヲ絶チタル日ヨリス但
醫師等ニ付テハ或ハ其月末ヨリシ或ハ其年末ヨリスル等ノ慣習アレ
ハ各地ニ依リ其慣習ニ注意セサル可カラサルナリ

第一百五十八條 公證人、辯護士、執達吏其他ノ公吏カ職
務ニ關シテ受ク可キモノニ付テノ其訴權ニ對スル
時効ハ二各年トス
此場合ニ於テ時効ハ右各人ノ債權ヲ生セシメタル

行爲又ハ訴訟ノ終了後ニ非サレハ進行ヲ始メス
然レトモ終了セサル事件ニ關シテハ右各人ハ五各
年餘ニ遡ル行爲ノ爲メニ謝金ヲ要求スルコトヲ得
ス

此規定ハ右各人カ其職務ノ爲メニ爲シタル立替金
及ヒ支出金ニ之ヲ適用ス

〔義解〕(二九〇) 本條ハ二各年ノ時効ヲ設ケ且之ヲ適用スル訴權ヲ規
定シタルモノナリ

公證人、辯護士、執達吏等カ職務ニ關シテ受ク可キ謝金、手數料等ニ付テ
ノ訴權ハ二各年ノ時効ニ罹リ消滅スルモノトス然レモ此時効ハ右各
人ノ債權ヲ生セシメタル行爲又ハ訴訟ノ終了スル時マテ停止シ其後
ニ非サレハ進行ヲ始メサルモノトス故ニ其行爲殊ニ訴訟カ長久ノ時

間ニ亘ルモ二個年ノ期間ハ其最後終了ノ時ヨリ起算ス可キモノナリ
 然ルニ第三項ハ又之ニ關スル一ノ特例ヲ設ケ未ダ終了セサル事件ニ
 關シテハ五個年餘ニ溯ル行爲ノ爲メニ謝金ヲ要求スルコトヲ禁セリ是
 レ其行爲又ハ訴訟ニシテ既ニ終了スルヤ右各人ハ直チニ要求ヲ爲シ
 得ルヲ以テ時効ノ期間尤モ短少ナル可ク而シテ未ダ終了セサル事件
 ニ付テ若シ此五個年ノ制限ヲ設ケサルトキハ第五百五十六條ノ義解ニ
 云ヒシ如ク債務者ハ非常ノ迷惑ヲ蒙ルコトナシトセサルヲ以テナ
 リ
 元來本條ノ規定ハ職務ニ關シテ受ク可キ謝金、手數料等ニ對スルモノ
 ナレモ更ニ其適用ヲ擴張シテ其職務ノ爲メニ爲シタル立替金及ヒ支
 出金ニ付テモ亦之ヲ適用スルコト爲セリ故ニ例ヘハ證券印紙、訴訟
 印紙等ノ代價ニ關スル立替金ノ如キ又其事件ニ必要ナル旅費、他人ヲ

使用セル報酬等ノ支出金ノ如キ總テ二個年若クハ五個年ノ時効ニ從
 フ可キモノトス

第五百五十九條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ一個年ト
 ス

第一 非商人ニ爲シタル供給ニ關スル日用品、衣
 服其他動產物ノ卸賣商人又ハ小賣商人ノ訴權
 但商人又ハ工業人ニ爲シタル供給ト雖モ其者
 ノ商業又ハ工業ニ關セサル場合ニ於テハ亦同
 シ

第二 右ノ區別ヲ以テ注文者ノ材料又ハ動產物
 ニ付キ仕事ヲ爲ス居職ノ職工又ハ製造人ノ訴
 權

第三 生徒又ハ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校長、塾主、師匠又ハ親方ノ訴權

〔義解〕(二九一) 本條ハ一个年ノ時効ヲ設ケ且之ヲ適用スル訴權ヲ規定シタルモノナリ

第一號ハ商人カ日常ノ需要品ヲ供給セシ場合ノ債權ヲ云フ即チ米穀、薪炭、牛乳、衣服等ヲ得意先ニ供給セルモノ故其買主ハ假令商人又ハ工業人タリト雖モ其供給セシ商品ハ日常生活ノ需要ニ充ツルモノニシテ營業ニ供スルニ非サルトキハ亦本條ニ從フ可キモノトス例ヘハ穀物商カ生糸商ニ向テ米穀ヲ供給セシカ如キ呉服商カ飲食商ニ向テ衣服ヲ供給セシカ如キ買主ハ純然タル商人ナルモ訴權ノ生シタル原因ヨリ之ヲ見レハ敢テ非商人ニ異ナルコトナシ何トナレハ其商品ノ購求タル盡ク自家日常ノ需要ニ供センカ爲メナレハナリ三百四十九

條ノ義
解參看

第二號モ亦右ト殆ト同一ニシテ唯タ前號ハ商品ノ代價ニ關シ本號ハ仕事ノ賃錢ニ關スルノミ即チ居職ノ職工又ハ製造人ニシテ非商人ノ注文ヲ受ケ其注文者ノ供與セシ材料又ハ動産物ニ付キ仕事ヲ爲ス者ハ其目的全ク勞力ノ報酬ヲ得ル一點ニ在リテ其關係タル甚タ細小ナルモノトス然リ而シテ此場合モ亦前號ト同シク假令商人又ハ工業人ノ注文ニ因ルト雖モ其者ノ商業又ハ工業ニ關セサル場合ハ之ヲ非商人ノ注文ノ場合ト同視セサル可カラス例ヘハ書籍裝釘ヲ業トスル者カ注文ニ因リ一卷二卷ノ書籍ヲ裝釘スルカ如キ即チ本號ニ該當スルモノニシテ書肆ノ注文ニ非サルヨリハ總テ之ヲ非商人ノ注文ナリト看做スナリ

第三號ハ首トシテ師弟ノ關係ヨリ生スル訴權ヲ云フ即チ衣食及ヒ止

宿ノ代料ノ如キ之ヲ下宿營業等ト混同ス可カラス是レ教育ノ便宜ノ爲メ生徒又ハ習業者ヲ塾舎又ハ自己家内ニ僑居セシムル場合ニ於ケルモノナリ而シテ其生徒ト云ヒ習業者ト云ヒ又校長ト云ヒ塾主ト云ヒ師匠ト云ヒ親方ト云ヒ以テ近似ノ名稱ヲ羅列セシハ諸般ノ事項ニ於ケル師弟ノ關係ヲ網羅センカ爲メニシテ上ハ書ヲ讀ミ學ヲ修ムル者ヨリ下、游藝、技術、工作殊ニ坊丁、工匠ノ業ヲ授受スル者ニ至ルマテ總テ之ヲ同視ス否ナ理論上同視セサル可カラサルナリ

第六十條 時効ハ左ノ訴權ニ對シテハ六個月トス

第一 第一百五十六條第六號及ヒ第一百五十七條第二號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一個月又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其訴權

第二 旅店又ハ料理店ノ主人ヨリ供給シタル宿泊料、飲食料及ヒ消費物ニ關スル其訴權

第三 日雇、月雇ノ職工又ハ勞力者ノ給料及ヒ其仕事ニ際シ此等ノ者ノ爲シタル些少ノ供給ニ關スル其訴權

〔義解〕(二九二) 本條ハ六個月ノ時効ヲ設ケ且之ヲ適用スル訴權ヲ規定シタルモノナリ

時効ノ期間ハ即時時効ト第三百三十四條及ヒ第三百三十五條ノ二場合(三個月)トテ除キテハ本條ヲ以テ最短ノモノト爲スナリ
本條ハ深意アルモノニ非サレハ別ニ説明ヲ要スルコトナシ只々第二號ノ消費物ニ關スル其訴權トハ一般ニ消費物ニ關スル訴權ヲ云フニ非スシテ旅店又ハ料理店ノ主人ヨリ供給シタル消費物ニ關スルモノ

タルヤ言ヲ俟タス而シテ第三號ニ所謂日雇月雇ノ職工又ハ勞力者ト
ハ時間ヲ以テ定メタル者ヲ云ヘルモノニシテ夫ノ請負契約ヲ以テ仕
事ヲ爲ス者ノ訴權ノ如キハ普通ノ時効ニ從フモノトス

第六十一條 前五條ニ規定シタル時効ハ現實ニ辨
濟セザリシコトヲ自白シタル債務者之ヲ援用スル

コトヲ得ス

〔義解〕(二九三) 前五條ニ規定シタル時効ハ其期間五ヶ年ヨリ下リテ
六ヶ月ニ至ル全ク特別ノ時効ナリト雖モ是レ唯々其期間ニ付テノミ
特別タルニ過キスシテ其他ノ點ニ付テハ毫モ普通ノ時効ト異ナル所
アル可カラス蓋シ時効ナルモノハ一個ノ推定ニシテ免責時効ハ其辨
濟アリシナラントノ推定ナルニ債務者若シ現實ニ辨濟セザリシコトヲ
自白スルニ於テハ縱令時効ノ要件ハ具備セルニモセヨ其基礎タル推

定ハ全ク事實ニ反スルコトノ瞭然タルヲ以テ法律ハ尙ホ且此推定ヲ
與フルノ執拗ヲ爲サス即チ此自白アレハ直チニ之ヲ時効ノ拋棄ト看
做スコトト爲シ既ニ第九十六條末項ヲ以テ之ヲ規定シタルカ故本條
ハ復々重テ之ヲ茲ニ明示シタルモノナリ

〔論說〕(二九四) 或人本條ヲ難シテ曰ク既ニ第九十六條ノ規定アリ
條ハ全ク之ト同一ノ事ヲ規定セルモノニテ重複ノ贅文タルモノナリ
然レモ重複ハ尙ホ可ナリ本條ノ規定ハ法理ニ背戾スルノ點アルヲ如
何セノ即チ本條冒頭ニ「前五條」トアルヲ以テ第五十六條モ亦々爰ニ
包含ス然ルニ第五十六條ニ規定シタル五ヶ年ノ時効ニ付テハ債務
者カ現實ニ辨濟セザリシコトヲ自白スルモ亦々其時効ノ成就ヲ妨ケサ
ルコト爲サ、ル可カラサルノ理由アリ蓋シ該時効タル一ニハ辨濟ノ
推定ニ出ツト雖モ亦々別ニ公安上ノ理由該條義アリ其理由ハ却テ該

時効ノ最モ大ナル基礎タルモノトス彼ノ債權者カ五ヶ年ノ久シキ其
 權利ヲ行使セスシテ債務者ニ至重ノ負擔(利息)ヲ加ヘシムルハ債權者
 ノ懈怠タリ即チ法律ハ此債務者ヲ保護セン爲メ該時効ヲ設ケタルモ
 ノ故假令債務者ノ自白アルモ債權者ノ懈怠ハ依然存在スルヲ以テ其
 制裁タル時効ハ尙ホ之ヲ成就セシメサル可カラス夫レ然リ本法カ既
 ニ此公安上ノ理由ヲ認メテ該時効ヲ設ケシニ拘ハララス直チニ本條ヲ
 以テ債務者ノ自白ニ依リ其援用ノ權ヲ失フト爲シタルハ是レ論理
 ノ一貫ヲ失ヒシモノナリト
 余以爲ラク是レ實ニ本末輕重ヲ知ラサルノ論ナリ本條ノ規定カ第九
 十六條ニ重複スルハ則チ然リ然レモ特別ノ時効ハ此點ニ於テモ亦々
 特別ナル歟ト誤解スル者アラフコト恐レ特ニ之ヲ再掲シタルノミ已
 ニ論者ノ如ク第五百五十六條ニ付テハ債務者ノ自白アルモ尙ホ時効ヲ

成就セシム可シト論スルノ輩アルニ於テハ益本條ヲ以テ之ヲ明カニ
 スルノ一層必要アルヲ見ルナリ
 然リ而シテ本法ニ於テ總テ債務者カ辨濟セサリシコトノ自白アルヤ時
 効拋棄ト看做スノ主義ヲ採リシハ是レ實ニ時効ノ本旨ヲ得タルモノ
 ナリ蓋シ時効ノ基礎ハ推定ニ在ルコト其時効ノ何種タルニ論ナク常
 同一ナル所ニシテ五ヶ年其他三ヶ年一ヶ年等ノ時効ト雖モ皆ナ然ラ
 サルハナシ彼ノ公安上ノ理由ニ至リテハ決シテ之ヲ時効ノ基礎トス
 可キモノニ非スシテ全ク時効ノ期間ヲ短縮スル所以ノ基礎タルニ過
 キサルナリ若シ又假リニ之ヲ時効其モノ、基礎ナリトスルモ此辨濟
 ノ推定カ時効ノ基礎タルノ一點ヲ動かカス能ハス故ニ債務者ニシテ現
 實ニ辨濟セサリシコトノ自白シタルトキハ之ヲ時効ノ拋棄ト看做サ、
 ラント欲スルモ得ヘカラス若シ夫レ時効ヲ以テ取得又ハ免責ノ方法

ナリト爲ス主義ヲ執ルニ於テハ論者ノ説乃チ可ナリト雖モ然レモ時
効ハ法律ノ推定ナリト明言シタル本法ニ於テハ本條ノ規定固ヨリ固
然ス可キニ非ザルナリ

第六十二條 裁判所書記、辯護士ハ裁判ノ時ヨリ公

證人ハ證書調製ノ時ヨリ執達吏ハ其職務執行ノ時

ヨリ三ヶ年ノ後ハ其職務ノ事件ニ關シテ交付セラ

レタル書類ニ付キ責任ヲ免カレ其書類返還ノ證ヲ

提示スル義務ヲ免除セラル

〔義解〕(二九五) 本條ハ裁判所書記、辯護士等ノ書類返還ニ關スル免責
時効ヲ規定シタルモノナリ

裁判所書記及ヒ辯護士ハ訴訟人ヨリ書類ヲ受取リテ其訴訟事務ノ爲
メ之ヲ預カリ居ルコトアリ公證人ハ證書調製ノ爲メ執達吏ハ職務執行

ノ爲メ各其依頼者ヨリ書類ヲ預カルコト多シ此等ノ總テ職務ノ事件ニ
關シテ交付セラレタル書類ハ任意ノ受託者カ爲ス可キ相當ノ注意ヲ
以テ之ヲ貯藏保管セサル可カラズ而シテ其職務既ニ畢リ書類ノ必要
既ニ解ケタルトハ之ヲ其所有者ニ返還セサル可カラズ然ルニ若シ
等ノ者カ其返還ヲ怠ルヤ所有者モ亦其返還請求ヲ怠リタルモノナ
リ夫レ然リ所有者ニシテ之ヲ等閑ニ附シ去リテ請求セズ長久ノ時間
ヲ經シ後ニ至リ突然之ヲ請求スルヤ其既ニ多ク年所ヲ經タルカ爲メ
書類ノ紛失シタルモノアラザルニ尙ホ公吏ハ其責ニ任セサル可カ
ラストセハ是レ甚ダ彼等ノ爲メ酷ナリトス且夫レ此等ノ書類ハ所有
者速ニ其返還ヲ請求スルヲ常トスルモノナルニ因リ數年ノ久シキ之
ヲ黙過セシハ已ニ返還アリシモノナラント看做スモ亦其不當ノ推定
ニ非ス是ニ於テ乎本條ヲ以テ三ヶ年後ハ其書類ニ付テ責任ヲ免カレ

其書類返還ノ證ヲ提示スル義務ヲ免除スルコトト爲シ即チ一種ノ免責時効ヲ設ケタルノミ蓋シ彼等ハ日々數多ノ事件ヲ取扱ヒ書類返還ノ證ノ如キモノ々長ク之ヲ保存スル能ハザレハナリ然リ而シテ此三ヶ年ノ期間ハ其職務ノ事件ノ終了ノキヨリ起算スルモノニシテ裁判所書記辯護士ニ在テハ裁判ノ時ヨリ公證人ニ在テハ證書調製ノ時ヨリ執達吏ニ在テハ其職務ノ執行ヲ終リシ時ヨリ起算スルモノナリ但裁判所書記辯護士ニ付テハ法文單ニ裁判ノ時トスルモ就中辯護士ニ付テハ當事者雙方ノ和解セントキ及ヒ辯護人ヲ解任セントキ等モ亦之ニ包含スルモノト解セサル可ラス如何トナシハ是レ亦タ彼等カ其書類ヲ返還ス可キコト爲リシ時ナレハナリ

第六十三條 本章ニ規定シタル時効ハ當事者ノ間ニ明確ナル計算書數額ヲ記載シタル債務ノ追認書

又ハ債務者ニ對スル判決書アルトキハ之ヲ適用スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ時効ハ三ヶ年トス

〔義解〕(二九六) 本條ハ本章ノ時効期間ニ關スル一ノ例外ヲ規定シタルモノナリ

本章殊ニ第五十六條以下ニ規定シタル時効ハ其期間普通ノ時効ト異ニシテ五ヶ年以下ナル最短ノモノト爲セリ其此ノ如ク之ヲ最短ニ爲セシ所以ハ既ニ上來論述セシ如ク或ハ其債權ノ性質上辨濟ノ迅速ナル可キニ因リ或ハ公安上債權者ヲシテ其請求ヲ速カニセシムルノ必要アルニ因ルモノニシテ且其總テノ場合ニ通スル更ニ一個ノ理由アリ是レ余カ其說示ヲ常ニ本條ニ讓リシ所ナリ他ナシ辨濟ノ證據ノ湮滅シ易キト是ナリ抑本章ニ規定シタル諸債權ハ其金額概テ些少ニシテ且多クハ日常ノ

取引授受ニ係ルモノナレハ債務者カ之ヲ辨濟スルモ必スシテ其受取書ヲ要求セス縱令之ヲ要求スルモ長ク之ヲ保存スルコトヲ認メス又其金額ノ入證ヲ許サル、場合ニ於テモ豫メ證人ヲ設クルカ如キハ甚ク稀ニ又證人ノ自カラ存スル如キ數年後ニ至ラテハ最モ難キ所アリ此故ニ債務者ハ現實之レカ辨濟ヲ怠ラサレシト雖モ之ヲ證明スルコトハ甚メ困難ニシテ爲メニ再ヒ辨濟ヲ爲ス可キカ如キ枉屈ニ陥ルルコトナシトモス即チ此枉屈ニ陥ルルコトヲ救ハシカ爲メニハ速ニ時効ヲ成就セシムルヲ要ス是レ實ニ本章ノ特別時効アル理由ノ一ナルナリ

其レ然リ特別ノ時効ノ理由既ニ此ニ在リトスレハ本條ノ場合ノ如キ實ニ其論決ヲ變セサルヲ得ス蓋シ當事者ノ間ニ明確ナル計算書アルハ數額ヲ記載シタル債務ノ追認書アルハ殊ニ債務者ニ對スル判決書

アルハ債務者ハ此ノ如キ強力ノ證據アルニ因リ其辨濟ヲ爲セシニ於テハ亦タ自己ノ爲メニ充分ナル證據ヲ求メサル能ハス即チ既ニ債務者ニ對スル強力ノ證據アルヤ債務者カ果シテ辨濟ヲ爲セシナラハ又其強力ノ證據アル可シト想像セサルヲ得ス故ニ此場合ニ於テヤ前記ノ理由ハ既ニ消散シテ特別ニ時効ノ期間ヲ短縮スルノ必要ナキニ因リ法律ハ之ヲ普通法ニ從ハシムルト爲シ乃チ時効ハ三十個年トスト規定シタルモノナリ

附則

第六十四條 本法實施ノ當時ニ於テ進行中ナル時効ハ上ニ定メタル條件、禁止、中斷及ヒ停止ニ從フ其期間ニ關シテハ舊時効カ新時効ヨリ一層長キ期間ヲ要スル場合ニ於テハ占有者又ハ債務者ハ本法

實施ノ時ヨリ算シテ舊時効ノ經過ス可キ殘馱カ新時効ノ期間ヨリ短キトキハ舊時効ヲ利スルコトヲ得

新時効ヨリ一層短キ期間ノ舊時効ニ關シテハ其期間ハ本法ニ定メタルモノニ等シキ期間ニ達スル様之ヲ延長ス可シ

〔義解〕(三九七) 本條ハ時効ニ關スル本法規定ノ實施方法ヲ定メタルモノナリ

夫レ本法ノ規定新クニ成リテ實施期日ニ至リ其効力ヲ生シ之ヲ實スルニ際シテハ舊法ト相比シテ金額ノ多寡期間ノ長短ハ勿論總テノ點ニ於テ其差違異同アルヤ極カラスシテ其實施上多少ノ困難ナシトモス之ヲ處スルノ道如何他ナシ其既得權ニ關スルモノハ法律ハ既往

ニ溯ル効力ヲ有セスト云フ法例第二條ノ原則ニ因リテ舊法ニ遵由シ手續方式等既得權ニ關セサルモノハ總テ本法ヲ適用ス可キノミ故此等ノ點ニ付テハ特ニ本法ニ之ヲ規定スルコトヲ要セス否ナ規定ス可キモノニ非ス唯タ一般ニ於ケル新舊二法對照ノ法則ニ從フ可キノナリ

其レ然リ然ラハ則チ時効ノ規定ハ之ヲ如何ス可キヤ蓋シ時効ハ純然タル簡單ノ一推定ニ非スシテ期間ノ經過ニ依テ成立スル推定ナリ即チ或ル期間ノ滿了ニ因リ始メテ個ノ取得又ハ免責アリシナラント推定スルモノニシテ而シテ其期間ノ未ダ滿了セサルヤ其滿了ノ日ハ時効ニ因リ或ル權利ヲ得又ハ或ル義務ヲ免ル可シト期待スルニ過キス故ニ時効既ニ成就セシ場合ニハ取得權トシテ之ヲ崇重ス可シト雖モ其未ダ成就セサルモノ、爲ニハ決シテ既得權ノ存スルコトナシ是ニ於

テ乎法律ハ新ナル規定ヲ適用スルコトヲ得ルヤ疑フ容シス是 本條第一項ノ規定アル所以ナリ此事タルヤ前述ノ理ニ因リ自カラ此ニ至ルモノニシテ必スシモ明文ノ規定ヲ要スルモノニ非ス唯本條規定ノ要旨ハ其第二項以下ニ在リトス即チ時効ノ期間ニ付テハ新法實施ノ當初ヨリ新法ヲ適用スルコトヲ得ルヤ言テ俟テザル所ナシト實際ノ事情上當事者ノ便益ノ爲メ新舊二期間ノ長短ヲ斟酌シテ取捨處分ノ便法ヲ設クルヲ必要トシ乃チ本條ヲ附加シタルモノナリ

〔二九八〕 現ニ進行中ニ在ル時効ハ既得權ニ非サルコト前述ノ如クナルニ因リ本法實施ノ日ニ於テ尙ホ進行中ナル時効ニ付テハ本法ニ定ムル條件禁止中斷及ヒ停止ノ諸事即チ時効ノ法規ノ殆ント總テ(唯マ期間ノ一點ヲ除キテ)ハ皆ナ此新法ヲ適用スルモノトス

然リ而シテ其殘餘ノ一點タル期間ニ付テハ茲ニ一ノ便法ヲ規定セリ



即チ舊時効カ新時効ヨリ一層長キ期間ヲ要スル場合例ハ舊時効ハ五個年ニシテ新時効ハ三个年ナル場合ニ於テ占有者又ハ債務者ハ本法實施ノ時ヨリ之ヲ算シ舊時効ノ經過ス可キ殘期カ新時効ノ期間ヨリ短キ例ヘハ右ノ時効ニ付キ占有ヲ始メシ後三个年ニシテ本法實施ニ際シタル日ノ如キ舊時効ニ從ヘハ爾後二個年ニシテ時効完成ス可キモ若シ新タニ本法ノ下ニ於テ時効ヲ成就セシメント欲セハ三个年ヲ經過セサル可カラサルニ因リ舊時効ノ殘期ハ新時効ヨリ一个年短キモノニシテ占有者又ハ債務者ハ舊時効ニ從フコトヲ利トス故ニ此場合ハ舊時効ヲ利用スルコトヲ得ルナリ

右ノ場合ニ於テ本法實施ノ日ハ若シ占有後一个年ヲ經過セシ時ニ在リトセン歟舊時効ノ殘期ハ四个年ニシテ新時効ニ比スレハ一个年長キカ故占有者ハ寧ロ其既往一个年ノ占有ヲ曾テ無カリシト看做

40
4



六六八

シ新時効ニ從フヲ利トス第二項ノ裏面ヨリ之ヲ見ルニ此
 ク此ノ如クセサル可カラサルナリ
 然ルニ舊時効ノ期間ハ新時効ノ期間ヨリ一層短キモノナリシ
 ナリハ之
 ナ新時効ノ期間マテ延長スルカ故舊時効ハ三
 今年ナリシトハ之ヲ改メテ五
 今年ノモノト爲ス而シテ舊法ノ下ニ於
 テ既ニ經過セシ時期ノ利益ハ之ヲ失ハシムルニ忍ヒス
 即チ本法實施
 以前ニ既ニ一
 今年ヲ經過セシ
 日ヨリ更ニ四
 今年ヲ經過ス
 ルヲ以テ満了
 完成スルモノト爲ス
 是レ第三項ノ旨趣タルナリ

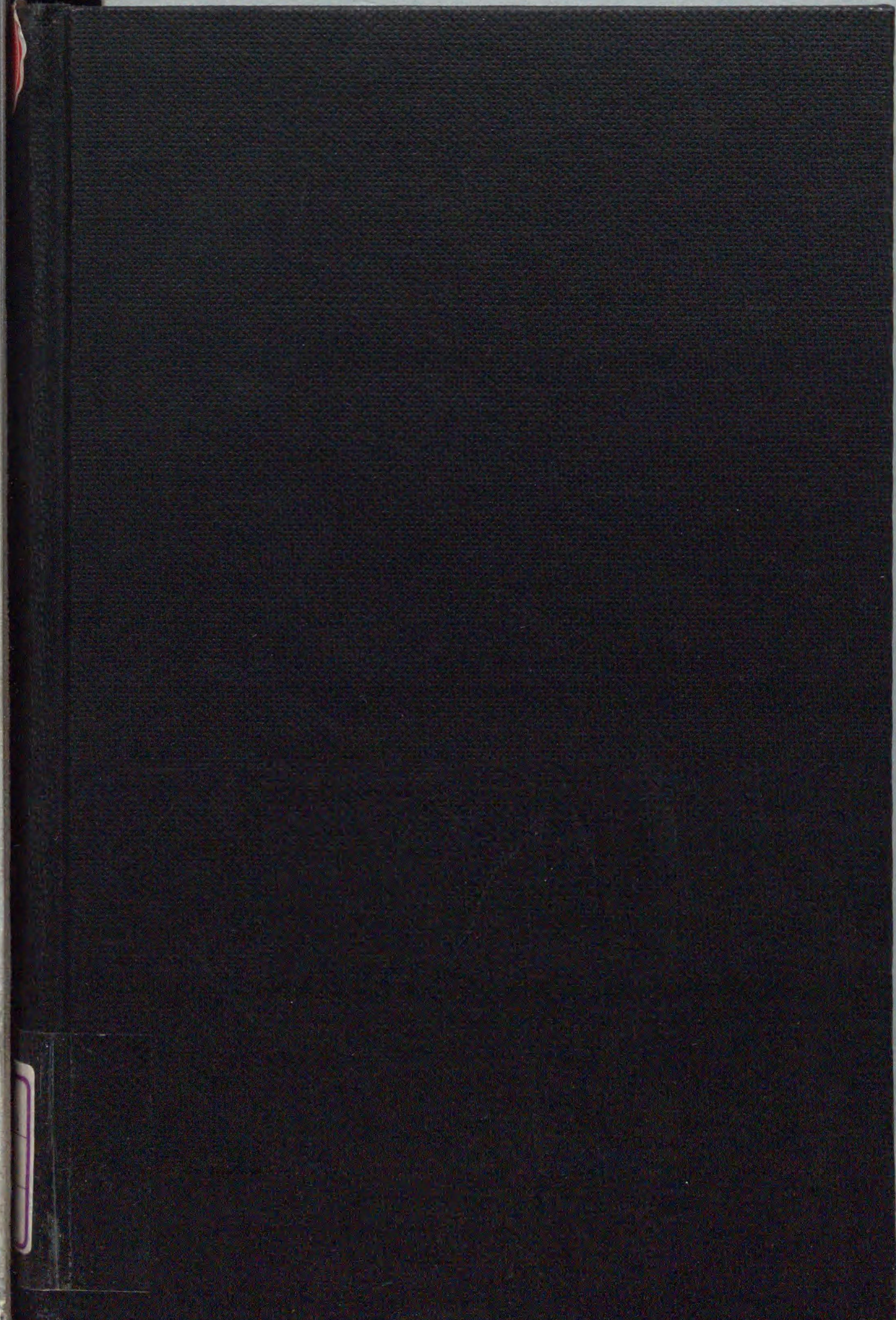
民法正義證據編 畢

W324.0/
M147
1(16)

最高裁判所図書館



000126022



Inches
1 2 3 4 5 6 7 8
cm
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

